

令和 5 年度
自転車イベント開催における共通感染症対策業務及び分析調査研究事業
調査報告書



この事業は競輪の補助を受けて実施いたしました。
<https://www.jka-cycle.jp/>

一般財団法人日本自転車普及協会
東京都品川区上大崎3丁目3番1号 自転車総合ビル4階
【TEL】 03-4334-7950 / 【FAX】 03-4334-7957

調査研究について

●目的

全国に拡大したCOVID-19は令和元年12月に発生し、社会的に大きな影響を与え、「3密の回避」「マスクの着用義務」等人々の生活を一変させた。ようやく令和5年5月に、世界保健機関（WHO）はCOVID-19に関する「緊急事態宣言」を終了とし、日本政府もCOVID-19を季節性インフルエンザと同様の「5類」へ移行した。

本調査は、令和5年度に自転車月間推進協議会<事務局：(一財)日本自転車普及協会>が主催する自転車イベントを開催するにあたり、引き続き安全安心なイベントを開催すべく、感染状況に適したCOVID-19の感染拡大防止対策を講じるとともに、令和3年度から継続して調査を行うことで、自転車イベントの特色×感染状況に沿った実施対策の経過、検証結果をとりまとめることが目的である。なお、3年に及ぶノウハウは、他の自転車関連イベント、競技大会主催者等への情報提供として活用する。

本報告書は2部構成である。第1部は【令和5年度の調査実績】について、第2部は【令和3年度～5年度の3か年の調査実績】について記載している。

調査研究について

●対象事業（令和5年度）

本研究は、下記3事業への取り組みについて考察・検証することにより実施する。

- ・ サイクルドリームフェスタ2023 2023年5月5日（金・祝）
- ・ Tour of Japan2023（全8ステージ） 2023年5月21日（日）～5月28日（日）
- ・ 2024ハンドメイドバイシクル展 2024年1月20日（土）、1月21日（日）

●対象事業（令和3年度～5年度）

令和3年度、令和4年度の事業は下記の通りである。

- ・ 令和3年度
 - : Tour of Japan2021（全3ステージ） 2021年5月28日（金）～5月30日（日）
 - : 伊豆大島御神火ライド 2021年11月21日（日）
 - ※当初予定していた「サイクルドリームフェスタ2021」はオンライン開催に切り替えたため対象事業からは除外し、「伊豆大島御神火ライド」を対象事業に追加
 - : 2022ハンドメイドバイシクル展 2022年1月22日（土）、23日（日）
- ・ 令和4年度
 - : サイクルドリームフェスタ2022 2022年5月5日（木・祝）
 - : Tour of Japan2022（全4ステージ） 2022年5月19日（木）～5月22日（日）
 - : 2023ハンドメイドバイシクル展 2023年1月21日（土）、1月22日（日）
- ・ 令和5年度 前項の通り

目次

はじめに	2
------	---

第1部：令和5年度調査実績

【総括】

■ 考察	8
1. 感染対策チームの設置	8
2. 行動履歴と健康観察	8
3. 検査体制	8
4. 検温所の設置	9
5. 参加者（選手）の感染対策	9
6. 会場内、スタッフの感染対策	10
7. イベント関係者の事後の感染状況の把握実施概要	10

【サイクルドリームフェスタ】

■ 実施概要	12
■ サイクルドリームフェスタにおける感染対策	
感染対策実施の概要	17
感染対策チーム組織体制図	18
感染対策マニュアル作成	19
健康観察報告フォーム	20
抗原検査の実施、結果の申告	21
感染疑似症者発生時の対応	21
検温チーム、感染対策員の配置	21
■ 会場における感染対策ブース	22
■ 結果報告	25
考察	28
■ 手配物、会場の様子	30

目次

【Tour of Japan】

■実施概要	36
■Tour of Japanにおける感染対策	38
用語の定義	39
感染確認に使用される検査	40
TOJ全体の対策事項	41
バブル毎による対策事項	42
ガイドラインの作成	46
健康チェックフォーム	47
■感染対策チームの設置	48
感染対策チーム内の配置実績	50
■感染対策マニュアル作成	54
■会場における感染対策ブース体制	57
■結果報告	68
事前抗原検査体制と結果	69
健康チェックフォームの結果	70
各会場における感染対策ブース 集計結果	71
大会中の個別対応	73
考察	74
■手配物、会場の様子	79

【ハンドメイドバイシクル展】

■実施概要	95
■ハンドメイドバイシクル展における感染対策	
感染対策実施の概要	97
感染対策チーム組織体制図	98
感染対策マニュアル作成	99
抗原検査の実施	100
感染疑似症者発生時の対応	101
感染対策員の配置	101
■会場における検温体制	102
■結果報告	106
考察	107
■手配物、会場の様子	108

第2部：3か年調査実績

■実施内容の推移

サイクルドリームフェスタ（来場型屋外イベント）	115
Tour of Japan（ロードレースイベント）	116
ハンドメイドバイシクル展（来場型屋内イベント）	117

■行動履歴と健康観察に用いたアプリケーションについて

使用したアプリケーションについて（概要）	118
アプリケーションの選定	119
使用したアプリケーションについて（詳細）	120
事前案内／考察	121

■安全にイベントを開催する上での最重要事項

1.感染対策チームの設置	122
2.行動履歴と健康観察の実施	123
3.検温所の設置	124
4.参加者、来場者、スタッフの感染対策	125
5.その他	127

■セミナーの実施

	128
--	-----

■本事業で構築したガイドライン、マニュアル、報告書の活用について

	130
--	-----

■調査実施団体

	131
--	-----

■参考、出典文献

	132
--	-----

第1部：令和5年度調査実績

1. 感染対策チームの設置

- ・ イベントにおける感染対策チームの設置は、COVID-19流行下でのイベント開催を安全かつ確実に実施する上で有効であったと考える。特に下記の点において、感染対策に専従するスタッフの配置は欠かせないものであった。
- * COVID-19の感染症分類が5類に移行し、世相を反映した適切な感染対策を検討することが求められた。「過度な対策を講じることによる不快感を与えず、対策不足によるイベントの安全性も損なわない」という双方のバランスを保つためには、常に最新の専門家の知見を感染対策の内容に落とし込むことが必要であった。
- * TOJ期間内、チーム関係者に複数名の陽性者が確認されたが、陽性者への適切な対応と、当該チームのレース継続可否判断を行うための周囲への検査及び経過観察が、感染者の更なる拡大を防止し、選手のレース続行に寄与した。

2. 行動履歴と健康観察

- ・ 行動履歴および健康観察の記録は、対象者および管理者にとって大きな負担となるため、可能な限り簡素化された方法で回答を収集することが肝要である。実際に、本事業3年目の令和5年度は回答率が100%であり、設問内容や方法の簡素化が回答率を高めた大きな要因と考えられる。
- ・ 健康観察収集の方法を選定するにあたり、海外で活動する者がいる場合にはリージョン規制により正常に起動しない恐れがあるため、スマートフォンアプリ以外の方法での管理が推奨される。また、ウェブブラウザで操作可能なフォームを使用し、またそのフォームも自動翻訳が可能であれば、地域、言語の壁を越えた記録の収集が可能となる。
- ・ アプリやブラウザにて収集を実施する場合も、PC、スマートフォンでの回答が難しい方を想定し、紙面等による回答方法を用意しておく必要がある。ネット環境のトラブルが発生した場合にもリカバリーできるため、事前に記入用紙を作成しておくことが必須である。

3. 検査体制

- ・ イベント等への参加要件として、抗原検査にて陰性確認を行うことは、無症状陽性者や発症前の陽性者を除外するにあたって非常に有効な手段である。昨今、様々な抗原検査キットが市場に出回っているが、感染の可能性を確認する上では、厚生労働省が薬事承認しているキットを使用することが重要である。

4. 検温所の設置

- ・ イベント会場やイベント参加者の当日の検温は、発熱者の除外の意味で水際対策として有効である。
- ・ 令和5年度は、希望者のみ任意で検温を実施することができ、また体調に不安のある方は相談ができる窓口として検温所を運営した。この体制は感染対策の規制が緩和している情勢を考慮したうえで、各個人の感染対策を促す点において十分に機能を果たしたと考える。
- ・ 検温に係る時間短縮のため、検温速度の速い機器を導入することと併せて、自立式の検温スタンドを使用したことで、検温器オペレーター分の人手を入場者整理やマスク交換の対応に回すことができ、来場者のスムーズな入場に寄与した。
- ・ 非接触の検温のみでは判断が難しい状況がある（外気の影響を大きく受ける環境、非検温者自身にその他の風邪症状やCOVID-19関連症状がある場合等）。そのため、看護師等の医療従事者が検温、問診などを行える2次検温所を設けることが望ましい。
- ・ 検温機器は雨、風、気温などの外的要因に影響されるため、特に屋外での使用については対策を講じる必要があり、検温所の設置計画段階から考慮して進めることが重要である。
(対策の例)
 - * 雨や風を除けられるようにテントの設置場所を考慮する、テント横幕で囲う。
 - * 直射日光に当たることで体表温度が上がるため、日陰に検温所を設置することはもとより、検温前に被検温者が日陰に一定時間滞在できるような動線となることが望ましい。
 - * 真夏、真冬の使用の場合には、一層温度管理に留意し、空調管理を行う。

5. 参加者（選手）の感染対策

- ・ マスク着用が個人の判断となることに留意しつつも、「不特定多数の人と密集する場面におけるマスク着用の有効性」を周知することは、5類移行後も継続して、非常に重要な感染拡大防止対策のうちの1つである。
- ・ イベントが複数日程に及ぶ場合、競技中よりもむしろ宿泊場所や移動中、および食事会場などでの感染リスクが高いため、生活面での感染対策を徹底するべきである。
- ・ 競技中以外のCOVID-19を疑う発熱や上気道症状などを呈する選手やスタッフが発生した場合に、参加者のクラスター発生を防ぐために、医師を中心とした感染対策医療チームを帯同させ、速やかに感染者の対応を行うことが望まれる。また、医師の帯同が難しい場合の代替策として、看護師や救急救命士を帯同させ、医師のオンライン指示・助言体制をとることも有効である。

6. 会場内、スタッフの感染対策

- ・マスク着用の規則を明確にし、事前の周知徹底が重要である。なお、マスクの中でも「サージカルマスク」の着用が効果的である。
- ・手指消毒アルコールは会場動線を考慮し、必ず通過する入場口とアンケートコーナー等の人が集まる場所に配置することが効果的であり、触れたものについては頻回の消毒作業を行うことで感染対策により一層の効果を得ることができる。
- ・イベントの実施場所が、屋内であるか、屋外であるかによって、感染リスクは大きく異なる。
屋内イベントにおいては、適度な換気を行いリスクを低減させるほか、屋外イベントに比べ一段階強化した対策を講じる必要がある（マスク着用、密を避ける対策、座席間の距離をあける等）。
また、屋外イベントであっても、テント横幕などで覆われたテント内などで換気がされていなければ、屋内と同様の対策が必要になる。
屋内およびテント内などでは、換気を行うことで感染リスクを大幅に低減できるため、十分な換気は非常に重要である。
- ・イベント中にスタッフや来場者にCOVID-19関連症状が発生した時に備え、救護所を設置し、医療資格者による適切な初期対応を受けられる体制を整えることが望ましい。

7. イベント関係者の事後の感染状況の把握

- ・5類移行後は、濃厚接触者の特定や行動制限は求められないため、積極的な通知を行う必要はないが、イベント後も感染対策における医療的な相談体を継続して整えられると安心である。また、イベント後に陽性者が多数認められ、且つ、イベント期間中の接触による罹患と判断される場合には、情報を集約して関係者へ注意喚起を行うことが望ましい。

サイクル
ドリームフェスタ 2023

2023年5月5日（金）

名称：サイクルドリームフェスタ2023

日時：令和5年 5月 5日（金・祝） 10時～16時 荒天中止

会場：明治神宮外苑 聖徳記念絵画館前通り(東京都新宿区霞ヶ丘町) 及び周辺道路

入場料：無料 ※試乗会は1人100円

主催：自転車月間推進協議会

事務局：（一財）日本自転車普及協会

後援：自転車活用推進議員連盟/自転車活用推進本部/内閣府/警察庁/消費者庁/総務省/文部科学省/経済産業省/国土交通省/
環境省/東京都/新宿区/（公財）JKA/健康日本21推進全国連絡協議会

協賛：日本ベンダーネット（株）

協力：平和技術研究所/SPECIALIZED/5LINKS/プロショップ・タカムラ製作所/（株）近藤機械製作所/（株）WBS/ヨネック（株）/
（株）東商会/メリダジャパン（株）/ミズタニ自転車（株）/（株）サイクルスポット/マヴィックジャパン（株）/
警視庁四谷警察署/警視庁交通総務課/テクプラパーク powered by BBmedia/ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム/
バイシクルタウン青山/（株）インターマックス/（一社）グッド・チャリズム宣言プロジェクト/（株）和光ケミカル/
ジャパンカップサイクルロードレース/（株）トキノカンパニー/ヨツバサイクル/
（一財）日本サイクルスポーツセンター/アズマ産業（株）/なるしまフレンド/（一社）全日本フリースタイルBMX 連盟/
ダイドードリンコ（株）/（N）自転車活用推進研究会/東京サイクリング協会/（公財）日本サイクリング協会/（順不同）

🕒 11:30 ~	BMXパフォーマンスショー（第1回目） （協力：（一社）全日本フリースタイルBMX連盟）
🕒 12:00 ~	自転車メンテナンス講座 （協力：なるしまフレンド）
🕒 12:30 ~	ピーポ君の自転車交通安全教室 （協力：警視庁交通総務課）
🕒 13:00 ~	輪行実演ステージ （協力：アズマ産業（株））
🕒 13:30 ~	BMXパフォーマンスショー（第2回目） （協力：（一社）全日本フリースタイルBMX連盟）
🕒 14:00 ~	下剋上！我らワールド 改め メガネワールド上陸 （中島康晴氏 JSPORTS 自転車ロードレース解説者・栗村修ツアー・オブ・ジャパン大会組織委員会委員長）

■参加ライダー



Yu Shoji



Ryuga matsumura

試乗会

自転車体験試乗会

試乗コースは神宮外苑サイクリングロード。
(1周約1.2km)
高級スポーツバイクや電動アシスト自転車に
実際に乗って、体験してみてください。
タンデム（二人乗り）自転車の試乗も出来ます。

受付開始時間：09:40 試乗開始時間：10:00
受付終了時間：15:40 試乗終了時間：16:00

※試乗には身分証明書のご提示が必要です。
必ずお持ちください。

事前申し込みはこちらより

外周道路
自転車体験試乗会
申し込み

出展ブランド			
 <small>Global standards of Folding bike by Peace And Technology</small>			 <small>made by Kondo Machine Corporation</small>
平和技術研究所	5LINKS	プロショップ・タカムラ製作所	株式会社近藤機械製作所
 		 <small>b i k e s</small>	
株式会社和田商会自転車事業部	ヨネックス株式会社	株式会社東商会	ミスタニ自転車株式会社
		 <small>GLOBAL INNOVATION COMPANY</small>	
株式会社サイクルスポット	株式会社インターマックス	ジック株式会社	株式会社デイトナ
株式会社トライスポーツ	メリダジャパン株式会社	マヴィックジャパン株式会社	有限会社今野製作所

<p>警視庁四谷警察署 警視庁交通総務課</p> 	<p>東京都</p> 	<p>ライトウェイプロダクツジャパン株式会社</p> 
<p>一般社団法人さいたまスポーツコミッション</p> 	<p>バイシクルタウン青山</p> <p>バイシクルタウン 青山</p>	<p>一般社団法人グッド・チャリズム宣言プロジェクト</p> 
<p>株式会社和光ケミカル</p> 	<p>国土交通省(自転車活用推進本部)</p> 	<p>トキノカンパニー</p> 
<p>ジャパン・マウンテンバイク・カップ大会 実行委員会</p> 	<p>チャリダー★</p> 	<p>自転車月間・バイコロジー</p> 
<p>自転車文化センター</p>  <p>自転車文化センター BICYCLE CULTURE CENTER</p>	<p>Tour of Japanブース</p> 	

○BMX・MTB 子供乗り方教室

(協力:井手川直樹・三瓶将廣)
BMX・MTB子供乗り方教室詳細



○サイクルトレーラー 試乗会

(協力:ライトウェイプロダクツジャパン株)
サイクルトレーラーが会場内で試乗できます。



○白バイやパトカーと 記念撮影

(協力:警視庁四谷警察署)



○子供自転車試乗コーナー

(協力:株サイクルスポット・株東商會)
小さいお子様が安全に試乗できるスペースをご用意しました。



○おもしろ自転車試乗会

(協力:一般財団法人日本サイクルスポーツセンター)
普段公道では乗れない変わった自転車に乗れるよ。



○自転車安全走行 シミュレーター体験

(協力:東京都)
自転車のシミュレーターを使って交通安全を正しく学ぼう。



○発電自転車体験

自転車で電気を作ってみよう！



○俊敏性テストコーナー

(協力:自転車文化センター)
落ちてくる光を頼んで俊敏性の年齢を測定！



○自転車体験試乗会

(高級スポーツバイク、電動アシスト車)
タンデム自転車も乗れるよ！
必ず身分証明書をお持ちください



○おもロゲ散走 サイクルラリー

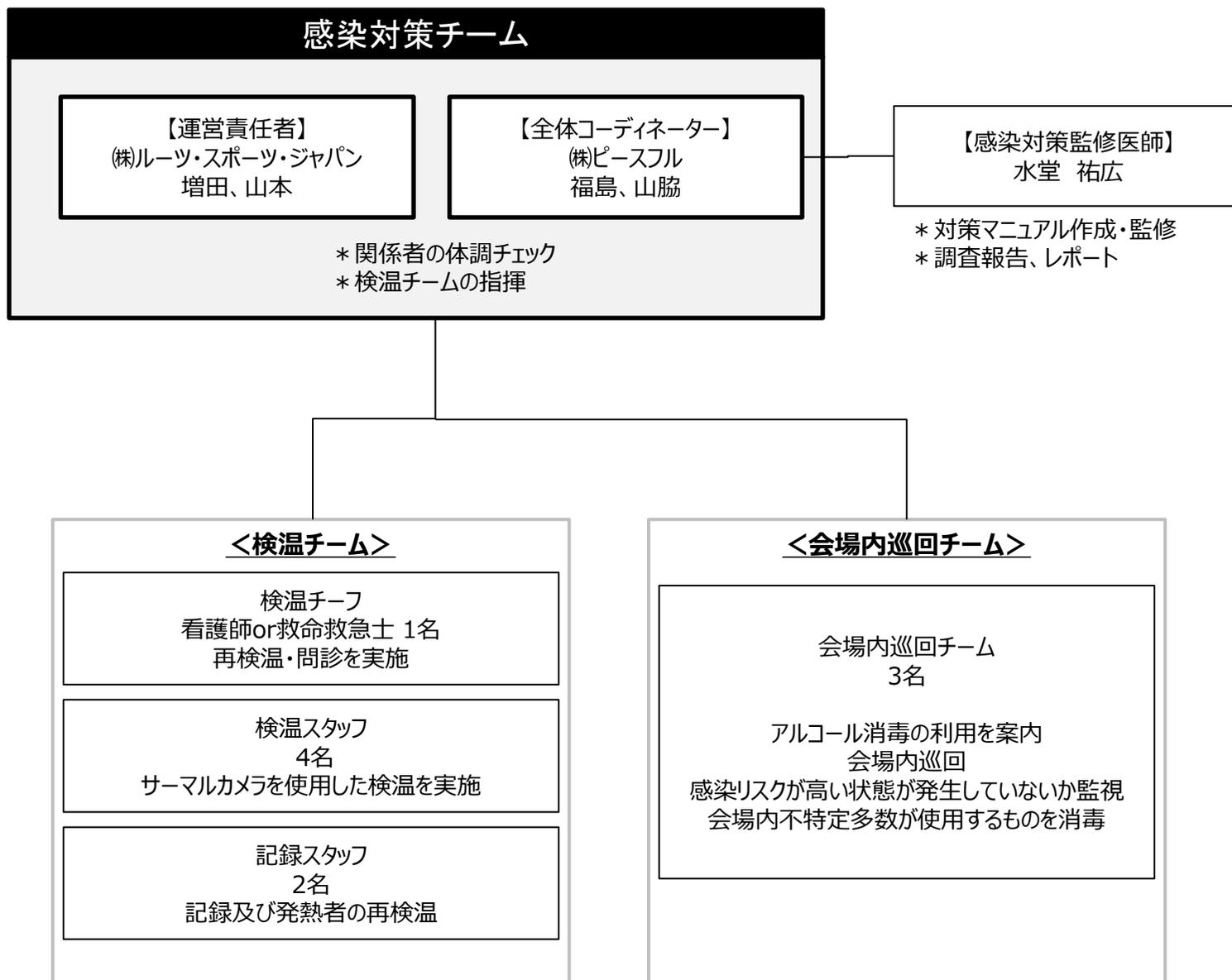
(協力:バイシクルタウン青山)



感染対策実施の概要（感染対策マニュアル抜粋）

- (1)感染対策チームを設置する。
- (2)関係者は、イベント当日会場到着時に、イベント当日5日前までの健康状態について、所定のフォームを提出する。
- (3)関係者は、イベント終了後1週間は各自の体調変化に留意し、COVID-19を発症、陽性を確認した場合は、感染対策チームまたは主催者に申告をする。
- (4)イベントで規定された関係者は、会場入り日の24時間以内に抗原検査（定性または定量）を受け、陰性を確認すること。
- (5)感染者発覚後のプロセスの明確化。
- (6)会場の各所に、手指消毒液及び感染防止対策注意喚起看板を配置
- (7)イベント会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置や廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底。
- (8)フィジカル・ディスタンスに留意し、会場ではマスクの着用を推奨する。
- (9)以下に該当する方は、イベントへのいかなる参加（会場への来場含）も不可とする。
 - ①会場来場当日に、下記a～dを含む体調不良のある方
 - a. 体温37.5℃以上
 - b. 強い倦怠感
 - c. 感冒様症状（咳、咽頭痛、息苦しさ等）
 - d. 味覚・嗅覚異常などの異変がある
 - ②PCR、LAMP、抗原検査受診結果が陽性で、下記に該当する方
有症状で、発症日から5日間かつ症状軽快後24時間以内
無症状病原体保有者では、再検査で陰性を確認できない方は、参加について医師に相談

感染対策チーム組織体制図



感染対策マニュアル作成

主催者、感染対策チーム、その他主要運営スタッフに配布（全16ページ）

INDEX	
■はじめに	
本マニュアルの目的	3
用語の定義	3
■CDF開催におけるCOVID-19 対策ガイドライン	
CDF開催における対策事項	5
イベント当日の注意点まとめ	7
■CDF開催中止の判断基準	
開催中止の判断基準	8
■健康観察報告	
健康観察報告フォームの提出	9
■感染対策チーム	
組織体制図	10
■感染対策連絡先一覧	
感染対策担当者/保健所	11
■会場における検温所体制	
感染対策ブース（検温テント）の概要	12
ブース配置図	13
■会場設置注意喚起看板	
注意喚起看板	14
■感染疑い発生時の対応フロー	
感染疑い発生時の対応フロー	15
■感染対策備品リスト	
感染対策備品リスト	16

サイクルドリームフェスタ2023 COVID-19対策マニュアル



健康チェックフォーム

サイクルドリームフェスタ2023では、出展者及び関係者に、事前の抗原検査の実施有無、および、イベント当日から遡った5日間にわたり体調不良や発熱等の症状がない旨を確認する健康チェックフォームの提出を義務とした。

●概要

イベント当日の5日間（4/30～5/4）以内に、所定の体調管理項目に当てはまる症状及び行動調査項目がないかチェックを行い提出

●回答日

2023年5月4日 ※イベント前日

●対象者

サイクルドリームフェスタ2023出展者及び関係者

サイクルドリームフェスタ 2023 関係者健康チェックフォーム

こちらは【サイクルドリームフェスタ2023】健康チェックフォームです。

下記の期間についてのご自身の体調について、虚偽のないよう入力をお願いします。

<健康観察・行動履歴チェック該当期間>
4月30日（日）～5月4日（木）の5日間

<入力方法について>
チェック期間最終日の5月4日（木）にご入力ください。
期限内において、設問の内容に当てはまる症状があったかを回答してください。
全項目の回答が必須となりますので、入力の漏れ・間違いないか確認の上、送信してください。
自動返信でご登録いただいたメールアドレスに申請内容が送られますのでご確認ください。

<抗原検査の結果について>
本フォームの最後に、抗原検査結果チェック項目がございます。
回答必須となりますので、健康観察・行動履歴報告と合わせて入力し、送信してください。

<情報の取り扱いについて>
記載していただいた個人情報は、本大会の健康観察管理以外には使用しません。
ご本人の同意がなければ第三者に個人情報を提供することはありません。
取得した個人情報は管理責任者を定め、紛失や漏洩などが発生しないよう積極的な安全対策を実施いたします。

氏名および所属、メールアドレス、ご連絡先電話番号を必ずご入力ください。

アカウントを切り替える

* 必須の質問です

メールアドレス *

メールアドレス

氏名 *

回答を入力

所属 *

回答を入力

健康観察・行動履歴について

以下、健康チェック該当期間【4月30日（日）～5月4日（木）の5日間】のうち当てはまる項目の有無についてご回答ください。

体調不良の内容

- 1 平熱を超える発熱（概ね37度5分以上）がありますか。
- 2 咳または呼吸困難な症状がありますか。
- 3 だるさ（倦怠感）がありますか。
- 4 鼻算、鼻算の異常がありますか。
- 5 鼻づまりや喉の痛みがありますか。
- 6 吐き気や嘔吐、下痢はありますか。
- 7 異常な筋肉痛はありますか。
- 8 頭痛はありますか。

上記の8項目の内、1つでも当てはまる症候はありますか *

はい

いいえ

抗原検査の結果報告

会場に出展者としてご参加の方は抗原検査を実施し、結果を入力してください。
※必ず、【会場入り日の24時間以内】に抗体検査を実施してください。

実施した抗体検査の結果 *

陰性

陽性

検査していない

抗原検査の実施・結果の申告

事前に出展関係者数を集計し各団体代表者あてに抗原検査キットを送付、会場へ入る24時間以内に検査を行うことを義務とした。

●方法

出展者に抗原検査キット必要数を確認し送付。

検査実施のタイミング（会場に入る24時間以内）をキットに同封した案内状に記載。

健康チェックフォームに抗原検査結果の入力欄を設け、陰性／陽性のいずれかを回答必須項目として設定し、回答率が100%となるようにした。

感染疑似症者発生時の対応

●対応手順

- (1)検温にて37.5度以上を検知
- (2)救護所兼再検温所へ移動
- (3)問診及び再検温
- (4)発熱または問診の結果、感染が疑われる場合は入場不可の判断
- (5)緊急性がある場合は救急搬送、緊急性がない場合は帰宅

検温チーム、感染対策員の配置

●内容

会場内の感染対策として、希望者への検温、マスクの配布を行った。

また、マスクを着用しておらず密になっているブース等がある場合には、声掛けを行う。

●方法

清掃員にはグローブ、消毒スプレー、除菌ウエットシートを携行させて会場内を巡回及び定点監視を行う。

監視中に密となっている方を発見した際には、密にならないよう声掛けを行う。

会場における感染対策ブース

●感染対策ブース

信濃町側の会場入り口にて、感染対策ブース（検温テント）を設置し、希望者が検温できる環境を整えるとともに、医療従事者を配置し、健康相談、体調不良者への対応が可能な体制を整えた。

検温時は、サーモグラフィーカメラを使用して通過する来場者の検温を実施し、手指消毒液も用意し、手指消毒を促した。

●人員配置

- ・感染対策ブース：検温スタッフ2名、記録員1名、チーフ（医療従事者）を1名配置

※チーフは、37.5以上を計測した場合に再検温及び体調等の問診を実施して感染の疑いがないかを判定。

- ・会場巡回スタッフ：3名体制で、巡回し、手指消毒液の利用を案内、感染リスクが高い状態が発生していないか監視

●検温フロー

検温所では以下のフローに従って入場の可否を判断する。

<入場可能>

検温所 37.4℃以下

検温所 37.5℃以上 再検温 37.4℃以下 問診結果問題なし

<入場不可>

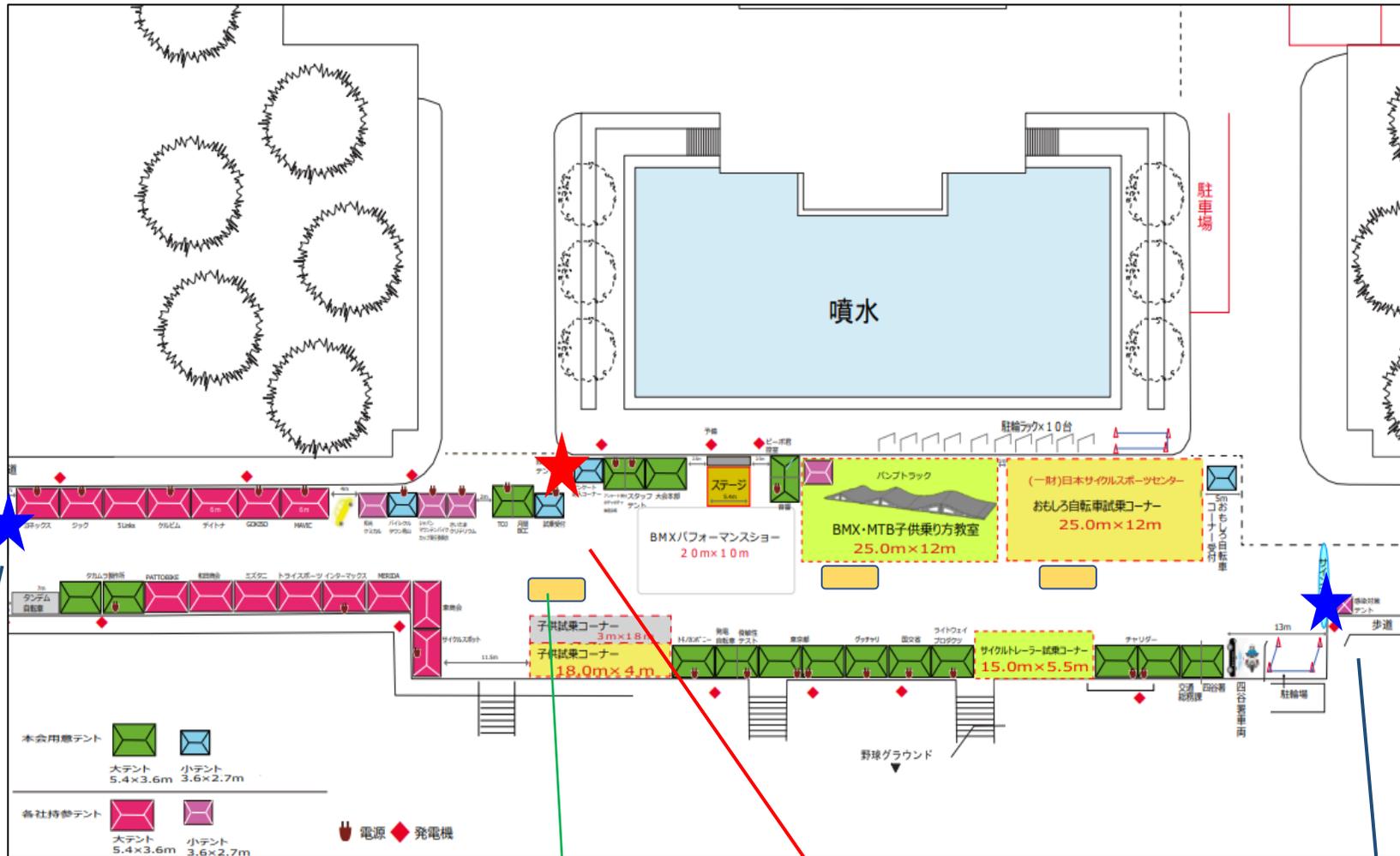
検温所 37.5℃以上 再検温 37.4℃以下 問診結果問題あり

検温所 37.5℃以上 再検温 37.5℃以上

●使用機材

サーマルカメラ
Bitstrong社
BS-K1TA70MI-T





★注意喚起看板

★アルコール消毒

★感染対策ブース兼救護所

- ・検温
- ・救護備品
- ・交換マスク配布
- ・アルコール消毒

★感染対策ブース

- ・検温
- ・交換マスク配布
- ・アルコール消毒
- ・注意喚起看板

結果報告

●出展者

回答者数	142名、142回答（1人/1回答）
体調不良なし	138件
体調不良あり	4件
抗体検査回答	陰性139、陽性3

※ 3件の陽性回答あり、当日会場にて誤入力であることを確認

●関係者・スタッフ

回答数	60名、60回答（1人/1回答）
体調不良なし	59件
体調不良あり	1件
抗原検査回答	陰性60、陽性0

▼フォーム未入力の方へは手書用紙をお渡し



感染対策ブース集計

検温	34
マスクお渡し	2
再検温	0
救護対応	3

●特記事項

- ・来場者の検温は任意であったため、検温件数は毎時10名を下回った。しかし、少数ながら検温を希望する来場者がいらっしやることを今回の結果より確認することができる。
- ・救護所を兼務したテントでも検温器を設置していたが、来場者動線から少し外れた奥まった場所であったため、検温対応は発生しなかった。結果として、周囲の視線を避けることができ、救護、健康相談対応を行う専用テントとして活用することができた。なお、イベント性質上、転倒を主な原因とした外傷対応が予測されるため、傷の洗浄に必要な水源・排水を考慮した位置に救護所を設営することが望ましい。

1. 関係者の管理に関する事項

- ・出展社スタッフの個人名の特定ができず、健康チェック未入力者の照合をすべて口頭で確認する必要があった。最終的に未入力の58名に対して手書用紙での回答収集を行った。対象者（未入力者）が既に来場者への対応をしているケースが多く、イベント終盤にすべての聞き取りを終える状況であった。
- ・健康チェックの回答内容に問題がある方に対しては、個別確認を実施し対応した。なお、すべて入力ミスによるものと確認済み。

2. 健康チェック・抗原検査に関する事項

- ・健康チェックの件数は202件で、問題のある回答や抗原検査が陽性である者はいなかった。なお、抗原検査が陽性だったと回答した方が3名いたが、本人への聞き取りにより入力ミスであることを確認済みである。
- ・出展社によっては、抗原検査発送時の申請人数と当日ブースにいる人数が異なることがあったが、人数が減った場合を除いて、事前に申告を受けた人数分の健康チェック、抗原検査結果をフォームまたは手書用紙で収集した。

3. 検温所の体制に関する事項

- ・今回導入した機器は反応速、感度ともに問題なく、スムーズに検温を行うことができた。
- ・サーモグラフィーカメラは日光の影響を受けやすいため、検温器を設置するテントの横幕を三方向に設け、日差しの影響が最小限になるよう対策を実施した。
- ・マスクの着用が推奨であったことや気温が高かったことから、希望者へのマスク配布は2件であった。
- ・強制的な検温体制はとらなかったが、意識的に検温を行う来場者もあり、不安を払拭する意味でも検温所の設置の意義はあったと考える。COVID-19が感染症分類で5類となった後でも、検温や消毒など感染対策については最低限行っていくことが望ましい。

4. 会場内の管理に関する事項

- ・会場内のテーブルは、出展ブースを含めて定期的に消毒清掃を実施した。
- ・フェイスシールドの着用については任意であったため、着用を希望するスタッフはいなかった。
- ・検温同様、意識的にこまめに消毒する来場者もいっしょり、且つ、アルコール消毒についてはCOVID-19の感染対策上でも特に継続して行うべき対策とされているため、引き続きアルコール消毒液の設置は必要と考える。

5. マスクの統一ルール

- ・関係者、来場者に対し、会場内での不織布マスク着用を推奨した。
 - ・2023年5月8日をもってCOVID-19が感染分類上で5類に引き下げられたことを受け、感染対策としてのマスク着用は個人での判断に委ねられることになった。特に屋外においては必要性や熱中症のリスク等を鑑みて、強制的にマスクを着用させる義務はないものとする。
- ただし、屋内でのイベントで人が密集する場合や、屋外でもテント内（横幕付き）などで換気が妨げられる状況、飲食を伴う状況においては、引き続きマスク着用を促していくことも必要である。感染リスクに対する意識には個人差があるが、原則は不安を抱く方に配慮した対策を講じることが望ましいと考える。

手配物、会場の様子

●関係者配布物

備品	数量	備考
不織布マスク（個包装）	50個	関係者配布用（忘れた方）
不織布マスク（個包装なし）	300個	来場者配布用（忘れた方）
ゴム手袋	120枚	

感染対策スタッフは
下記のビブスを着用



●感染対策ブース、感染対策チーム所持

備品	数量	備考
サーマルカメラ	2	
ハンディタイプ非接触型検温機	最大10	* 主催者購入で計上済
会場内検温所及び注意喚起看板	3	
防護服	3	
除菌シート（100枚入り）	5	
消毒液ボトル設置テーブル	6	感染対策チーム用意
飛沫防止パネル	9	
消毒液ポンプ	ブース 関係者分	検温所、ブース、関係者
感染対策スタッフビブス	人数分	自普協様確認

サーマルカメラ
BS-K1TA70MI-
T



▼看板



▼防護服



▼サーマルカメラ



▼AED



▼フェイスシールド



▼消毒液



▼マスク



▼ビニール手袋



▼感染対策ブース（信濃口側）



▼感染対策ブース兼救護所



▼消毒液の配置（全箇所）



▼注意喚起看板の設置（信濃口側・国立競技場側・ステージ横の全3か所）



▼入口での手指消毒



▼ブース



▼救護手当



▼ステージ観覧



▼試乗会



▼ブースへの消毒液配布





2023年5月21日（日）～5月28日（日）

実施概要

Event Name 大会名称	Tour of Japan 2023 (UCI Asia Tour Class2.1) ツアー・オブ・ジャパン 2023 (UCIアジアツアー・2.1)
Date 期 日	21 May - 28 May 2023 2023年5月21日(日)~5月28日(日)
Venue 会 場	Sakai, Kyoto, Inabe, Mino, Shinshu Iida, Fujisan, Sagamihara, Tokyo 堺、京都、いなべ、美濃、信州飯田、富士山、相模原、東京
Organizers 主 催	Cycle Month Promotion Council 自転車月間推進協議会
Supervisor 主 管	Tour of Japan Organizing Committee (Secretariat: Bicycling Popularization Association of Japan) ツアー・オブ・ジャパン組織委員会 (事務局: 一般財団法人日本自転車普及協会)
Race Supervisor 競技主管	Japan Cycling Federation 公益財団法人日本自転車競技連盟
Support 後 援	The Japanese Legislators' Association for Promoting Bicycle Use / Bicycle Utilization Promotion Headquarters / Cabinet Office, Government of Japan / Ministry of Internal Affairs and Communications / Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology / Ministry of Economy, Trade and Industry / Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism / Consumer Affairs Agency, Government of Japan / Tokyo Metropolitan Government / Osaka Prefectural Government / Mie Prefectural Government / Nagano Prefectural Government / Shizuoka Prefectural Government / Kanagawa Prefectural Government / J.K.A. / National Liaison Council for Promotion of Health Japan 21 自転車活用推進議員連盟 / 自転車活用推進本部 / 内閣府 / 総務省 / 文部科学省 / 経済産業省 / 国土交通省 / 消費者庁 / 東京都 / 大阪府 / 三重県 / 長野県 / 静岡県 / 神奈川県 / 公益財団法人 JKA / 健康日本21推進全国連絡協議会
Cooperation 協 力	Sakai City / Kyoto Prefectural Government / Kyotanabe City / Seika Town / Inabe City / Gifu Prefectural Government / Mino City / Iida City / Oyama Town / Sagamihara City / Tokyo Port Terminal Corporation 堺市 / 京都府 / 京田辺市 / 精華町 / いなべ市 / 岐阜県 / 美濃市 / 飯田市 / 小山町 (静岡県駿東郡) / 相模原市 / 東京港埠頭株式会社
Event Details 競技種目	Men Elite Stage Race (Class 2.1) 男子エリート・ステージレース
Participants 参加資格	<ul style="list-style-type: none"> - UCI WorldTeams (max 50%) - UCI ProTeams - UCI Continental Teams - UCI Cyclo-cross Professional Teams - National Team Total: 16 teams with 96 riders <ul style="list-style-type: none"> - UCI ワールドチーム (最多 50%) - UCI プロチーム - UCI コンチネンタル・チーム - UCI シクロクロス・プロチーム - ナショナル・チーム 合計: 16チーム・96名
Frequency 周波数	Organizer provides receivers to all participating teams. The Radio tour frequency is one of 30 frequencies which between 351.2 MHz to 351.38125 MHz at 6.25 GHz intervals. 主催者は参加全チームに受信機を提供する。ラジオ・ツアー周波数は351.2~351.38125 MHzの間の、6.25GHz間隔の30波のうちのひとつである。

Regulations 規 則	This race will be held in accordance with UCI Rules and Regulations. Penalties will be assessed solely according to the UCI Penalty Chart. レースはUCIの競技規則に基づいて行なわれる。罰則は唯一UCIの罰則表が適用される。
Awards 表 彰	All participants are obligated to attend the various official ceremonies planned by the organizer in appropriate clothes. Riders at the top of each classification are obligated to wear a Leader Jersey which indicates his placement. The official awards ceremony will be held right after each stage. The following must attend the official ceremony at the end of each stages: At the each stages, the winner. Also at 1st to 8th stages, the leader of the general classification, the leader of Points and the Young Riders classification. At 2nd to 8th stages, the leader of King of Mountains. At the final stage top 3 riders of the general classification and the winning team as well. 参加者は全員、主催者によって企画された種々の公式セレモニーに正しい服装で出席することを義務付ける。各部門の首位の競技者には、それを示すリーダー・ジャージを着用することを義務付ける。各ステージ終了後ただちに表彰式を行う。下記の者は各ステージ終了後の公式式典に出席しなければならない: 各ステージにおける勝者。第1~8ステージにおける個人総合時間順位の首位者、個人総合ポイント賞の首位者及び新人賞の首位者。第2~8ステージにおける個人総合山岳賞の首位者。最終ステージにおける個人総合時間順位の上位3名及び団体総合時間順位首位チーム。

Doping Inspection

ドーピング・コントロール

The UCI Anti-doping regulations are entirely applicable to the event. Moreover, and in conformity with the law of JAPAN, the Japanese anti-doping legislation "Act on the Promotion of Anti-Doping Activities in Sport" is enforced.

UCIアンチ・ドーピング規則は、この大会に完全に適用される。さらに、日本国の法律に従い、「スポーツにおけるドーピングの防止活動の推進に関する法律」が施行されている。

International Commissaires

コミセール構成

President of the Commissaires Panel (Appointed by UCI) / チーフコミセール (UCI指名)

Philippe MARIËN / マリエン フィリップ

Member of the Commissaires' Panel / コミセールパネル・メンバー

Chiho IWASA / 岩佐 千穂

Yuka TOYA / 遠矢 有華

Race Director

レースディレクター

Race Director / レース ディレクター

Osamu KURIMURA / 栗村 修

Address:

住 所

Jitensha-Sogo Bldg., 3-3-1, Kamiosaki, Shinagawa-ku, Tokyo, Japan Tel.: +81 (3) 4334-7957
東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル4F Tel.: +81 (3) 4334-7957

Timing・Photo - Finish Company

計時・写真判定会社

MATRIX Inc. / 株式会社マトリックス

大会映像はYouTube「ツアー・オブ・ジャパン公式チャンネル」『BPAJ.ch』でライブストリーミング配信



**Tour of Japan2023における
感染対策**

用語の定義

●COVID-19

「COVID-19 (SARS-CoV-2)」はコロナウイルスのひとつです。コロナウイルスには、一般の風邪の原因となるウイルスや、「重症急性呼吸器症候群 (SARS)」や2012年以降発生している「中東呼吸器症候群 (MERS)」ウイルスが含まれます。

ウイルスにはいくつか種類があり、コロナウイルスは遺伝情報としてRNAをもつRNAウイルスの一種 (一本鎖RNAウイルス) で、粒子の一番外側に「エンベロープ」という脂質からできた二重の膜を持っています。自分自身で増えることはできませんが、粘膜などの細胞に付着して入り込んで増えることができます。

ウイルスは粘膜に入り込むことはできますが、健康な皮膚には入り込むことができず表面に付着するだけとされています。物の表面についたウイルスは時間がたてば壊れてしまいます。ただし、物の種類によっては24時間~72時間くらい感染する力をもつとされています。

手洗いは、たとえ流水だけであったとしても、ウイルスを流すことができるため有効です。石けんを使った手洗いはコロナウイルスの膜を壊すことができるので、更に有効です。手洗いの際は、指先、指の間、手首、手のしわ等に汚れが残りやすいといわれていますので、これらの部位は特に念入りに洗うことが重要です。また、流水と石けんでの手洗いができない時は、手指消毒用アルコールも同様に細胞の膜を壊すことによって感染力を失わせることができます。

●隔離

症状のある人や感染者を他の人から隔離し、感染や汚染の広がりを防止するものです。

●フィジカル・ディスタンス

感染予防に特化した言葉で、テレワークや人数制限、人と人との十分な間隔を空けるといった「感染拡大の防止に向けて身体的、物理的距離の確保」を指します。

感染確認に使用される検査

COVID-19を診断するための検査には、PCR検査、抗原定量検査、抗原定性検査等があり、いずれも被検者の細胞内にウイルスが存在しているかどうかを調べるための検査です。

●核酸検出検査

ウイルス遺伝子（核酸）を特異的に増幅する PCR (polymerase chain reaction) 法が用いられます。

検体中に遺伝子が存在しているか否かを定量的に確認する方法として、リアルタイム RT-PCR、簡便かつ短時間で結果判定ができる核酸検出方法として、LAMP (loop-mediated isothermal amplification) 法や TMA (transcription mediated amplification) 法等、等温で反応が進む簡易法が開発されています。

○リアルタイムRT-PCR

リアルタイム RT-PCR は定量法で、ウイルス量の比較や推移が評価でき、コピー数が推定できること等から信頼性が高いです。

○リアルタイムRT-PCR 以外のLAMP法、TMA法等の等温核酸増幅法

LAMP法やTMA法等は、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）遺伝子の検出までの工程が短縮され一定温度で実施可能な遺伝子検出法です。リアルタイムRT-PCRと比較して感度は落ちますが実用範囲で、反応時間が35～50分程度と短いといった利点があります。

○NEAR法

等温核酸増幅法（NEAR法- Nicking Enzyme Amplification Reaction）はCOVID-19の遺伝子を増幅して検出することで感染の有無を判断する検査であり、PCR検査の一つです。迅速に結果を得ることができ、医療機関でも多く導入されています。

●抗原検査

SARS-CoV-2の構成成分である蛋白質を、ウイルスに特異的な抗体を用いて検出する検査法です。核酸検出検査と同様に陽性の場合にはウイルスが検体中に存在することを示します。

抗原検査には、定性検査と定量検査があり、抗原定性検査は有症状者においてウイルスの抗原を検知し、診断に導く検査であり、症状発症から9日目以内の症例では確定診断として用いることができます。

無症状者に対する抗原定性検査は、リアルタイム RT-PCR 法等と比較し感度が低下する可能性があるため、確定診断として用いることは推奨されません。

抗原定量検査は、専用の測定機器を用いてウイルス抗原の量を定量的に測定することができます。検査に抗原と抗体反応のウォッシュ過程があり、特異度も高く、感度も簡易な核酸検出検査と同レベルであり、無症状者に対する唾液を用いた検査に使用可能なことが示されているため、空港検疫等でも活用されています。

TOJ全体の対策事項

● 2023年はバブルの運用無し

- (1)感染対策チームの設置、帯同（医師を含む）。
- (2)TOJホームページにおける関係者、参加者、観客に向けた本ガイドラインの掲載及び周知。
- (3)チーム（選手、チームスタッフ、チーム広報）、コミセール、スタッフは、会場入り24時間以内に、健康状態の記録を所定のフォームにて提出必須。
- (4)スタッフ（マーシャル、各ステージスタッフは除く）は、会場入り24時間以内に、抗原検査を実施し陰性を確認すること。なお、8ステージ通して従事する関係者は、第4ステージ（美濃）終了後から5月24日（水）23:59までに追加で抗原検査を実施し陰性を確認すること。
- (5)感染者発覚後のプロセスの明確化。
- (6)大会会場の各所に、手指消毒液及び感染防止対策注意喚起看板を配置。
- (7)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置や廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底。
- (8)フィジカル・ディスタンスに留意し、密閉空間、密集場所、密接場面ではマスクを着用する。
- (9)大会コミュニケ、スタートリスト、リザルト等は、極力メーリングリストやSNSを使用した配布とし、ペーパーレス化を図る。
- (10)以下に該当する方は、大会へのいかなる参加（大会会場への来場、観戦含）も不可とする。
 - ①大会会場来場当日に、下記a～dを含む体調不良のある方
 - a. 体温37.5℃以上
 - b. 強い倦怠感
 - c. 感冒様症状（咳、咽頭痛、息苦しさ等）
 - d. 味覚・嗅覚異常などの異変がある
 - ②PCR、LAMP、抗原検査受診結果が陽性で、下記に該当する方
 - 有症状で、発症日から5日間かつ症状軽快後24時間以内
 - 無症状病原体保有者では、再検査で陰性を確認できない方は、参加について医師に相談

チーム（選手、チームスタッフ、チーム広報）の対策事項

● 2023年はバブルの運用無し

- (1)会場入り24時間以内に、健康状態の記録を所定のフォームにて提出必須。
- (2)大会期間中、発熱、体調不良等の自覚症状がある場合、直ちにチーム監督を通じ、感染対策チームへ申し出、医師の診察、抗原検査を受ける。陽性が確認された場合は隔離状態を確保の上、安静または受診等医師の判断を仰ぎ、大会会場には来場しない。
- (3)チームメンバーは、大会期間中、密閉空間、密集場所、密接場面ではマスクを着用し（選手はレース中を除く）、適宜うがい、手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う。具体的には、表彰時、車両移動時はマスクの着用が必須である。また、スタートエリアでも、スタート数分前にスタッフがマスクを回収するまでは必ずマスクを着用すること。
- (4)大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、大会以外の不要不急の外出を自粛する。
- (5)レース前の出走サインは省略とし、ICタグのチェックで出走確認を行う。
- (6)レース補給地点へは決まった補給員のみ配置し、補給の際はマスクを着用する。
- (7)会場チームピット内は、基本的にチーム関係者以外の立ち入りは禁止。
- (8)チームピットや準備エリアにいる人数に応じて、フィジカル・ディスタンスを確保する。
- (9)レース中に唾や痰を吐くことは極力行わない。
- (10)選手間のタオル、ボトルなどの共用はしない。
- (11)補給に使用したボトル、ジェルなどは指定場所以外に捨てない。
- (12)表彰式では、表彰対象選手は、授与されるジャージを自ら着用、副賞等を持参の上、ステージに登壇する。
- (13)大会会場や公共の場において、ウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル、スクイズボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置や廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。
- (14)選手、チームスタッフがメディアの取材を受ける際は、1.5m以上のフィジカル・ディスタンスを保つ。
- (15)大会期間中、チームからCOVID-19陽性者が発生した場合、当該選手、スタッフは指示された期間大会参加不可とする。

コミセールの対策事項

● 2023年はバブルの運用無し

- (1)会場入り 24 時間以内に、健康状態の記録を所定のフォームにて提出必須。
- (2)大会期間中、発熱、体調不良等の自覚症状がある場合、直ちに主催者が用意する抗原検査を実施し、JCF 担当者を通じ、感染対策チームへ連絡する。陽性の場合、大会会場には来場しない。
- (3)コミセールは、大会期間中、密閉空間、密集場所、密接場面ではマスクを着用し、適宜うがい、手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う。車両移動時はマスクの着用が必須である。
- (4)大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、大会以外の不要不急の外出を極力控える。
- (5)コミセールカーやオフィシャルカーは、適宜換気を行い、使用前後に車内やハンドル等の手が触れる場所の除菌、消毒を行う。また、私物や飲食物を車内に放置しない。
- (6)大会会場における施設、またはテント内では、間隔を空けて着席し、三密を避ける。
- (7)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置や廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。
- (8)大会期間中、コミセールに COVID-19 陽性者が発生した場合、該当者は指示された期間、大会参加不可とする。

スタッフの対策事項

● 2023年はバブルの運用無し

- (1)会場入り 24 時間以内に、健康状態の記録を所定のフォームにて提出必須。
- (2)事前に主催者より送付する抗原検査を実施し、陰性を確認すること。陽性の場合は、直ちに感染対策チームに報告すること。実施概要については下記の通りである。
 - ①全ステージに従事するスタッフ：合計 2 回実施
 - ・会場入り 24 時間以内に実施
 - ・第 4 ステージ（美濃）終了後から 5 月 24 日（水）23:59 までに、追加で実施
 - ②一部ステージに従事するスタッフ：1 回実施
 - ・会場入り 24 時間以内に実施
 - ③マーシャル、各ステージスタッフ：実施なし
- (3)大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、大会以外の不要不急の外出を極力控える。
- (4)大会期間中、体調不良等の自覚症状がある場合、直ちに所属グループ代表者を通じ、感染対策チームへ申し出、隔離状態を確保の上、大会会場には来場しない。
- (5)大会関係者は、大会期間中、密閉空間、密集場所、密接場面ではマスクを着用し、適宜うがい、手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う。
- (6)オフィシャルカーや関係車両は、適宜換気を行い、使用前後に車内やハンドル等の手が触れる場所の除菌、消毒を行う。また私物や飲食物を車内に放置しない。
- (7)大会会場における施設、またはテント内では、間隔を空けて着席し、三密を避ける。
- (8)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、着用後のビブス、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置や廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。
- (9)大会期間中、スタッフに COVID-19 陽性者が発生した場合、該当者は、指示された期間、運営への参加不可とする。

取材、メディアの対策事項

- (1)大会取材を希望する際は、事前に取材申請を行い、取材同意書をメールまたは Web で提出必須。
- (2)感染症罹患の疑いがある、または発熱、体調不良等の自覚症状がある場合、大会会場に来場しない。
- (3)取材中は、常時マスク着用を必須とし、適宜うがい、手洗い、手指消毒を行う。
- (4)取材中は、事前に送付された不織布ビブス及びADカードを着用し、取材後は持ち帰りの上、廃棄する。
- (5)選手、チームスタッフ等に取材を行う際は、1.5m以上のフィジカル・ディスタンスを保つ。
- (6)取材時は、取材者同士のフィジカル・ディスタンスも十分に確保する。
- (7)プレス車両に乗車する際も、マスク着用を必須とする。乗車前に手指消毒を行い、会話は控える。また、私物や飲食物を車内に放置しない。
- (8)撮影エリア（フォトグラファー・エリア）は、設定された人数制限及びTOJ広報官の指示に従う。
- (9)大会会場における施設、またはテント内等では、間隔を空けて着席し、三密を避ける。
- (10)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置や廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。

観客の対策事項

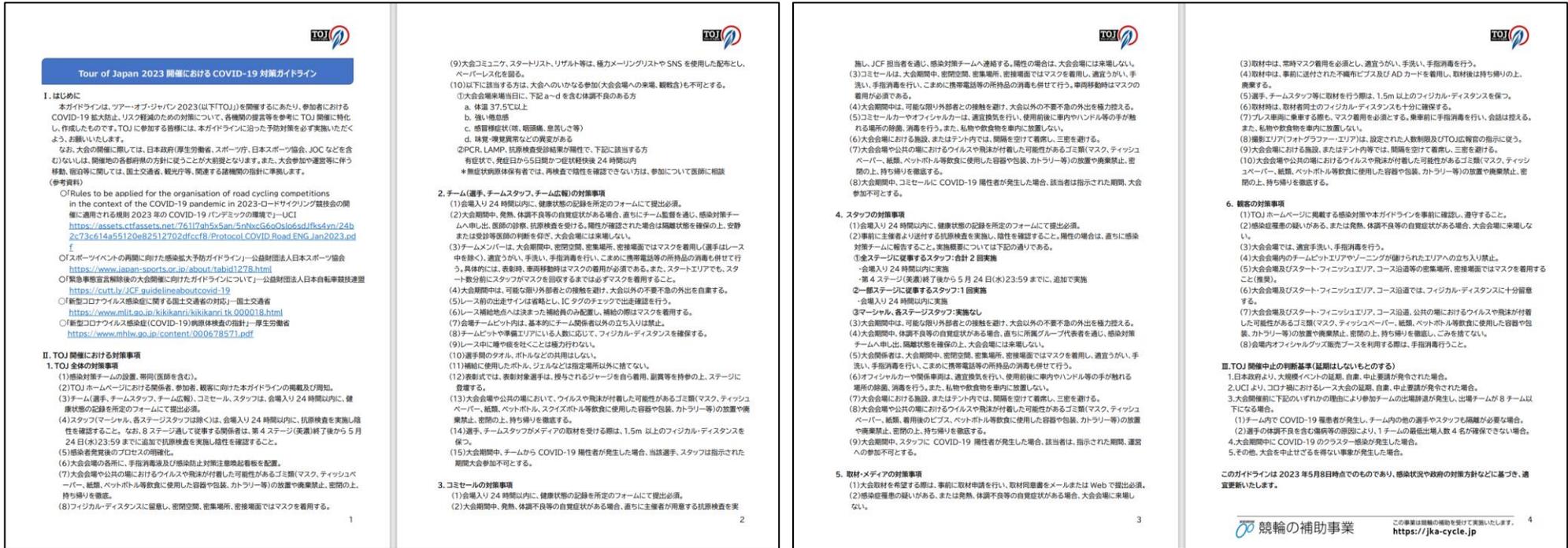
- (1)TOJホームページに掲載する感染対策や本ガイドラインを事前に確認し、遵守すること。
- (2)感染症罹患の疑いがある、または発熱、体調不良等の自覚症状がある場合、大会会場に来場しない。
- (3)大会会場では、適宜手洗い、手指消毒を行う。
- (4)大会会場内のチームピットエリアやゾーニングが儲けられたエリアへの立ち入り禁止。
- (5)大会会場及びスタート・フィニッシュエリア、コース沿道等の密集場所、密接場面ではマスクを着用すること（推奨）。
- (6)大会会場及びスタート・フィニッシュエリア、コース沿道では、フィジカル・ディスタンスに十分留意する。
- (7)大会会場及びスタート・フィニッシュエリア、コース沿道、公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置や廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底し、ごみを捨てない。
- (8)会場内オフィシャルグッズ販売ブースを利用する際は、手指消毒行うこと。

ガイドラインの作成

対策事項を記載した「Tour of Japan 2023開催におけるCOVID-19対策ガイドライン」を作成。

TOJ公式WEBサイトへの掲載や、チーム、コミセール、スタッフへの事前にPDFとして共有し、イベント大会前の周知を図った。

ガイドラインを載せた感染対策マニュアルは、大会事務局にてチーム、コミセール、スタッフに配布した。



健康チェックフォーム

●概要

チーム、コミセール、スタッフを対象とし、各自会場入りの24期間前までに1度入力を必須した。

●使用媒体

Googleフォーム

【ツアー・オブ・ジャパン2023】健康チェックフォーム 【Tour of Japan 2023】 Health Condition Report Form

こちらは【ツアー・オブ・ジャパン2023】健康状態報告の申請フォームです。虚偽のないよう入力をお願いします。

<入力日>
会場入り前 24時間以内に、本フォームを提出してください。
 必ず入力を済ませてから会場入りしてください。

<情報の取り扱いについて>
 記載していただいた個人情報は、本大会の健康観察管理以外には使用しません。
 ご本人の同意がなければ第三者に個人情報を提供することはありません。
 取得した個人情報は管理責任者を定め、紛失や漏洩などが発生しないよう積極的な安全対策を実施いたします。

*は必須項目です。

【問合せ】
 Tour of Japan 2023 事務局：村山 [\[murayama@tjfu.jp\]](mailto:murayama@tjfu.jp) ・中井 [\[nakai@tjfu.jp\]](mailto:nakai@tjfu.jp)

▼抗原検査陽性時の連絡先：山崎
 mail [\[yamawaki@peaceful-hp.com\]](mailto:yamawaki@peaceful-hp.com) tel [080-9827-2547]

▼体調不良時の連絡先：福島
 mail [\[fukushima@peaceful-hp.com\]](mailto:fukushima@peaceful-hp.com) tel [090-6156-1313]

=====

This is an application form for the [Tour of Japan 2023] Health Condition Report.

<Date>
 Please be sure to enter your information within 24 hours before entering the venue.

<Privacy Policy>
 The personal information you provide will not be used for any purpose other than the health observation and management of this event.
 We will not provide personal information to a third party without your consent.
 We will appoint a person in charge of managing the personal information we collect and take proactive safety measures to prevent loss or leakage.

* is a requirement

【Inquiry】
 Tour of Japan2023 Management Office : Murayama [\[murayama@tjfu.jp\]](mailto:murayama@tjfu.jp) ・ Nakai [\[nakai@tjfu.jp\]](mailto:nakai@tjfu.jp)

▼ If the antigen test is positive, Please contact us as soon as possible.
 Countermeasures against covid-19 helpdesk : Yamawaki
 mail [\[yamawaki@peaceful-hp.com\]](mailto:yamawaki@peaceful-hp.com) tel [080-9827-2547]

▼ Please contact us if you are not feeling well.
 Countermeasures against covid-19 helpdesk : Fukushima
 mail [\[fukushima@peaceful-hp.com\]](mailto:fukushima@peaceful-hp.com) tel [090-6156-1313]

◆健康チェック Health Check

【対象期間】会場入り前5日間 *
 【Time period】 5days before entering the venue

①平熱を超える発熱（概ね37度5分以上） / Fever above normal
 ②咳または呼吸困難な症状 / Symptoms of a cold(cough or difficulty breathing)
 ③だるさ（倦怠感） / Feel dull, fatigue
 ④臭覚、味覚の異常 / Abnormal sense of smell and taste
 ⑤鼻づまりや喉の痛み / Symptoms of a cold (stuffy nose or sore throat)
 ⑥吐き気や嘔吐、下痢 / Have nausea,diarrhea or vomiting
 ⑦異常な筋肉痛 / Have really sore muscles pain
 ⑧頭痛 / Have a headache

①～⑧に該当する症状はありません / I don't have those symptoms.

◆基本情報 Basic Information

氏名 Full Name *
 回答を入力

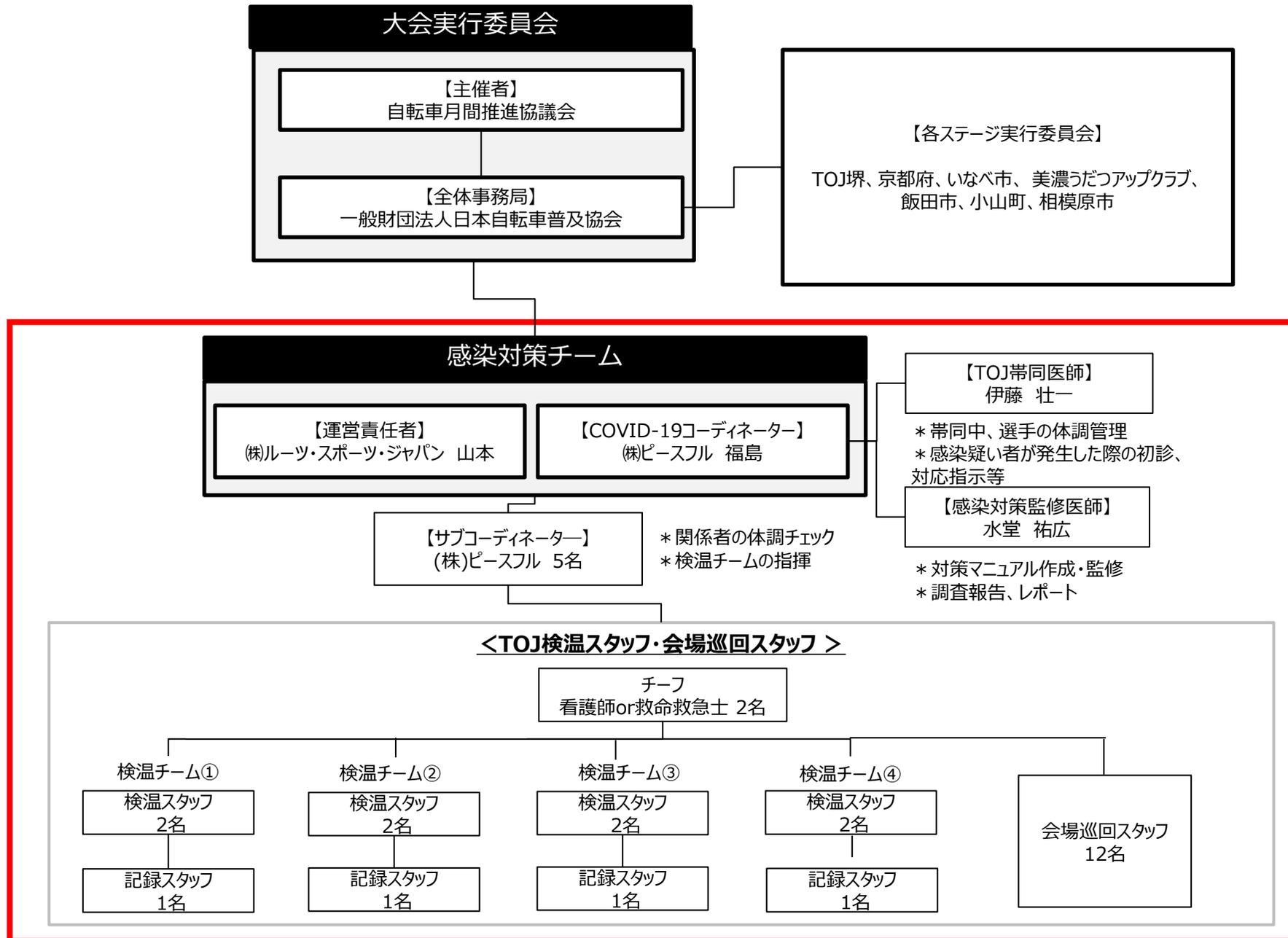
所属 Affiliation *
 チーム Team members (Rider,Team staff)
 コミセール Commissaires
 アンバサダー Ambassador
 スタッフ Staff

所属（企業名、団体名） Affiliation (Company Name、Organization Name) *
 回答を入力

連絡先（大会期間中つながる電話番号） Contact Address (Phone number to call during the race) *
 回答を入力

次へ フォームをクリア

感染対策チームの設置



感染対策チーム内の配置実績

事前

【役割】

- ・大会全体の感染対策の計画および感染対策マニュアルの作成、監修。
- ・会議への出席等

【体制】

- ・感染対策チーム運営責任者 1名 (株)ルーツ・スポーツ・ジャパン 増田、山本
- ・COVID-19コーディネーター 1名 (株)ピースフル 福島
- ・感染対策監修医師 1名 医療社団法人総生会 麻生総合病院 伊藤医師

当日

【役割】

- ・医師の帯同による感染疑似症者の対応
- ・イベント会場における感染疑似症者の対応
- ・関係者への検温（任意）
- ・会場内の感染対策業務（除菌作業等）

【体制】

- ・感染対策チーム運営責任者 1名 (株)ルーツ・スポーツ・ジャパン 山本
- ・COVID-19コーディネーター 6名 (株)ピースフル 福島 他5名
- ・帯同医師 1名 医療社団法人総生会 麻生総合病院
伊藤医師(5/19～21 ・ 5/25～26)
成宮医師 (5/22～24)
水堂医師(5/27～5/28)

感染対策チーム内の配置実績

当日

検温チームの配置 検温および巡回のスタッフについては、P17記載の人数にて時間交代制で執務

(堺ステージ)	検温ブース数	スタート/フィニッシュ会場1か所
(京都ステージ)	検温ブース数	スタート会場1か所 フィニッシュ会場1か所 計2か所
(いなバステージ)	検温ブース数	スタート会場1か所 フィニッシュ会場2か所 計3か所
(美濃ステージ)	検温ブース数	スタート会場1か所 フィニッシュ会場1か所 計2か所
(信州飯田ステージ)	検温ブース数	スタート/フィニッシュ会場1か所
(富士山ステージ)	検温ブース数	スタート会場3か所 フィニッシュ会場1か所 計4か所
(相模原ステージ)	検温ブース数	スタート会場2か所 フィニッシュ会場1か所 計3か所
(東京ステージ)	検温ブース数	スタート/フィニッシュ会場1か所

●TOJ帯同感染対策チーム医師

伊藤 壮一 (いとう そういち)

[専門科目]

救急医学、災害医療（日本DMAT隊員）、
蘇生学、医学教育学

[資格]

- 日本救急医学会救急専門医・指導医
- JPTECコース世話人・インストラクター
- JATECプロバイダー
- ICLSコースダイレクター・インストラクター
- ISLSインストラクター
- 米国ABLSインストラクター
- 米国Team STEPPS train the trainer certification
- ケンブリッジ英検 first certification

[職歴]

- 東京女子医科大学第四内科入局
- 川崎市立川崎病院 総合診療科
- 川崎市立川崎病院 救命救急センター副センター長
- 麻生総合病院 救急総合診療科 部長
- 医療社団法人総生会 麻生総合病院 救急総合診療科

成宮 理博 (なるみや ひろみち)

[専門科目]

救急医学、災害医療、蘇生学

[資格]

- 日本救急医学会救急専門医
- 日本集中治療学会専門医

[職歴]

- 日本赤十字社 京都第二赤十字病院 救急・集中治療 部長
- 京都府立医科大学
- 国立循環器病研究センター

水堂 祐広 (すいどう よしひろ)

[専門科目]

呼吸器内科、感染症内科、救急一般

[資格]

- 日本呼吸器学会、日本感染症学会専門医
- 日本内科学会総合内科専門医・指導医
- 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医
- ICD制度協議会認定インフェクションコントロールドクター
- JMECCコースインストラクター
- ICLSインストラクターコースディレクター

[職歴]

- 川崎市立川崎病院 総合診療科・救急科
- 川崎市立井田病院 呼吸器内科
- 神奈川県立循環器呼吸器病センター 呼吸器内科
- 藤沢市民病院 呼吸器内科
- 大和私立病院 呼吸器内科 藤沢市民病院 救急科兼任
- 麻生総合病院 救急総合診療科 内科兼任

● TOJ感染対策担当者

所属		担当者名
主催者 (TOJ事務局/東京ステージ)	(一財)日本自転車普及協会	村山 吾郎
競技主管	(公財)日本自転車競技連盟	齋藤 晃一郎
堺ステージ実行委員会	TOJ堺	佐々木 章
京都ステージ実行委員会	京都府	矢野 淳
いなべステージ実行委員会	いなべ市	水谷 吉孝
美濃ステージ実行委員会	美濃うだつアップクラブ	梅田 千尋
信州飯田ステージ実行委員会	飯田市	小島 滉平
富士山ステージ実行委員会	小山町	鈴木 吏
相模原ステージ実行委員会	相模原市	川崎 翔太
感染対策チーム 全体コーディネーター	(株)ピースフル	福島 圭介
感染対策チーム 運営責任者	(株)ルーツ・スポーツ・ジャパン	山本 美空

感染対策マニュアル作成

●日本語版：全44ページ

コミセール会議、監督会議にて配布。また、大会スタッフにも感染対策備品と併せて配布。

COVID-19
TOJ
Manual

Tour of Japan 2023

COVID-19感染対策マニュアル

※当内容は、2023年5月12時点の内容です。
今後、感染状況等に応じて変更になる場合があります。

Tour of Japan 組織委員会

競輪の補助事業

この事業は競輪の補助を受けて実施いたします。
<https://jka-cycle.jp/>

INDEX

■2022年大会からの変更点（抜粋）	3
■はじめに	4
本マニュアルの目的	4
用語の定義	4
感染対策に使用される検査	5
■実施概要	6
1. グローバルリスク評価	6
2. パンデミックの評価	7
3. パンデミックの状況に応じた様々な対策	7
4. 対策実施内容	9
5. 情報の交換	10
■TOJ開催における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン	11
TOJ開催における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン	11
開催期間中（各々の会場入り～28日）の注意点まとめ	15
■TOJ開催中止の判断基準	16
■抗原検査の実施	17
■健康チェックフォーム	18
■感染対策チーム	19
組織体制図	19
医師／専門家	20
感染対策担当者	21
■各開催地における医療機関一覧	22
■対応フロー	26
感染疑い発生時の対応フロー	26
大会関係者が陽性者と確定された際の対応	26
■一般観客のTOJ観戦について	27
会場での観戦	27
配信	27
■会場における感染対策体制	28
感染対策ブースの概要	28
堺ステージ	29
京都ステージ	30
いなべステージ	31
美濃ステージ	33
信州飯田ステージ	34
富士山ステージ	35
相模原ステージ	37
東京ステージ	39
■会場設置注意喚起看板（全ステージ共通）	40
■備品リスト	41
■参考・出典	43

Tour of Japan
2

● 英語版：全24ページ

コミセール会議・監督会議にて配布。

COVID-19 TOJ Manual

Tour of Japan 2023

COVID-19 Infection Control Manual

※This is as of May 12th.
The content is subject to change
depending on the infection status in the future.



Tour of Japan Organizing Committee

 競輪の補助事業 This business will be carried out with the assistance of Keirin.
<https://jka-cycle.jp/>

INDEX

■ Implementation overview	
Details of countermeasures	3
Exchange of information	4
■ Guidelines for Tour of Japan 2023	5
■ Requests to related parties	13
■ TOJ Cancellation Criteria	14
■ Conducting an antigen test	15
■ Health Check Input Form	17
■ Infection Control Team	18
Organizational Structure Chart	18
Doctor	19
Supervising physician	20
■ The address list	21
■ COVID-19 Positive Person Emergency Response Flowchart	22
■ General spectators watching TOJ	23

Tour of Japan 2

会場における感染対策ブース体制

●使用機材

検温は各会場にテントを設営し、希望者が検温できる環境を整えるとともに、医療従事者の配置を行い健康相談、体調不良者への対応を行える体制とする。

検温で 37.5℃ 以上を計測した場合には、体温計および問診票を使用して再検温を行います



◀サーマルカメラ
Bitstrong社
BS-K1TA70MI-T

●人員配置

検温各テントには検温スタッフ2名、記録員1名を配置します。

記録員は、検温数の記録を行うことと、発熱を検出した際には医療従事者に引き継ぐ。

また、会場内には感染防止対策会場スタッフが巡回し、アルコール消毒の利用を案内、感染リスクが高い状態が発生していないか監視します。

検温で発熱が確認された来場者に対しては、再検温を行い再度発熱が認められた場合は入場不可とします。

●検温フロー

検温および再検温では以下のフローに従って入場の可否を判断します。

<入場可能>

検温所 37.4℃ 以下

検温所 37.5℃ 以上 再検温 37.4℃ 以下 問診結果問題なし

<入場不可>

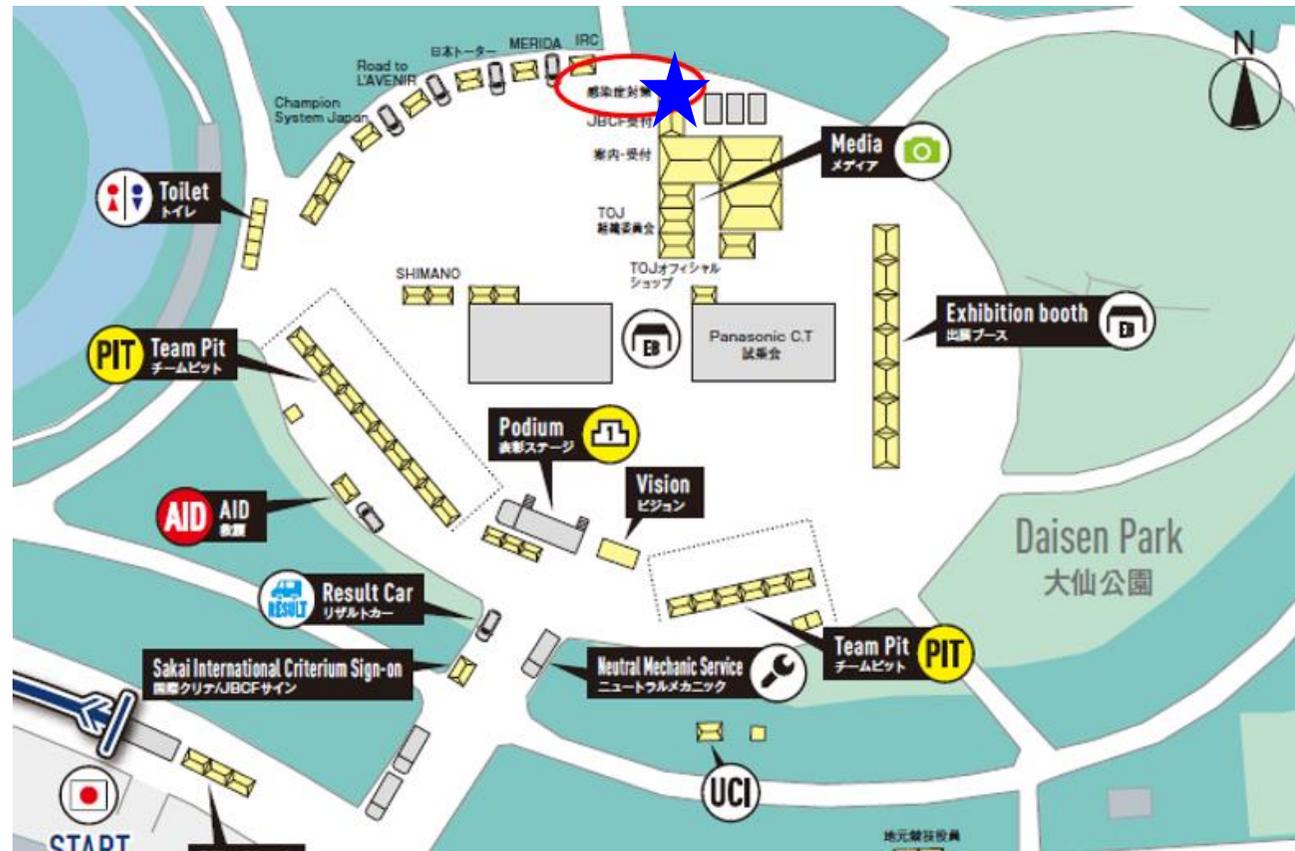
検温所 37.5℃ 以上 再検温 37.4℃ 以下 問診結果問題あり

検温所 37.5℃ 以上 再検温 37.5℃ 以上

●堺ステージ

★ : 感染対策ブース

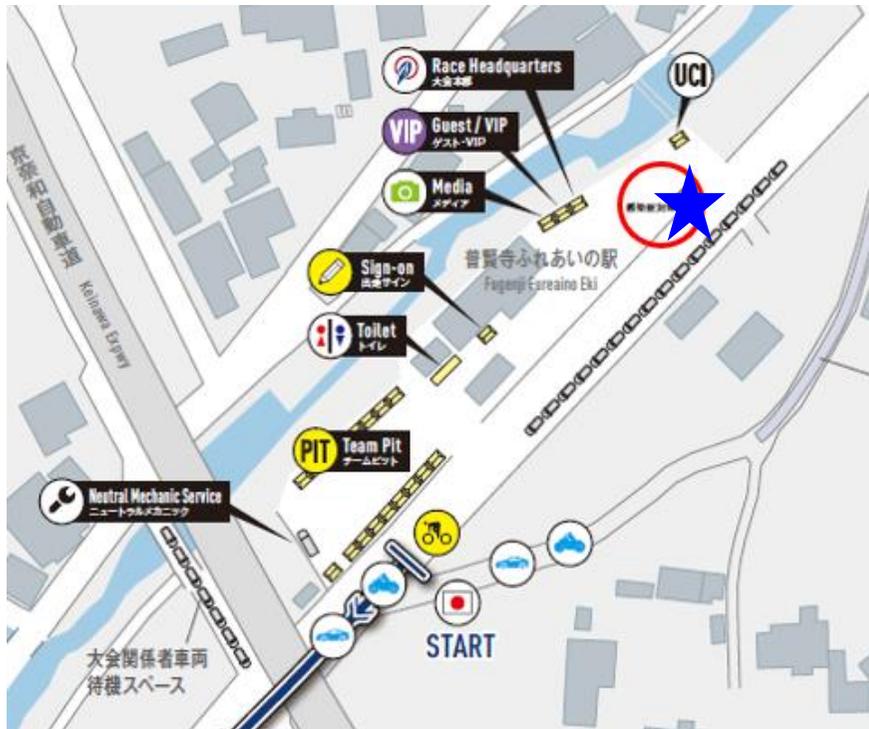
スタート/フィニッシュ(計1か所)



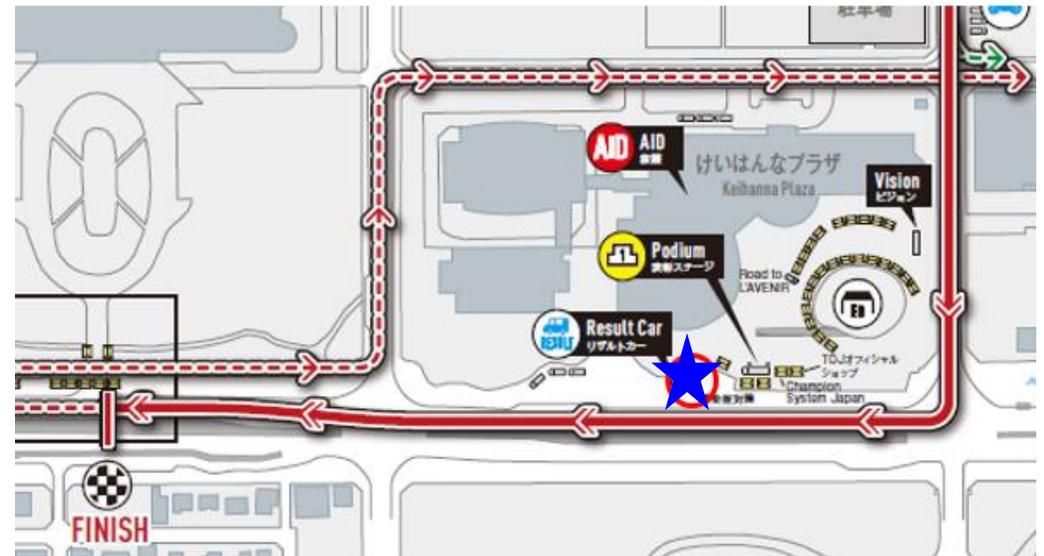
●京都ステージ

★ : 感染対策ブース

スタート (計1か所)



フィニッシュ (計1か所)



●いなベステージ

★ : 感染対策ブース
★ : スタッフ要巡回

スタート (計1か所)



フィニッシュ (計2か所)



会場における感染対策ブース体制

●美濃ステージ

★ : 感染対策ブース

スタート (計1か所)



フィニッシュ (計1か所)

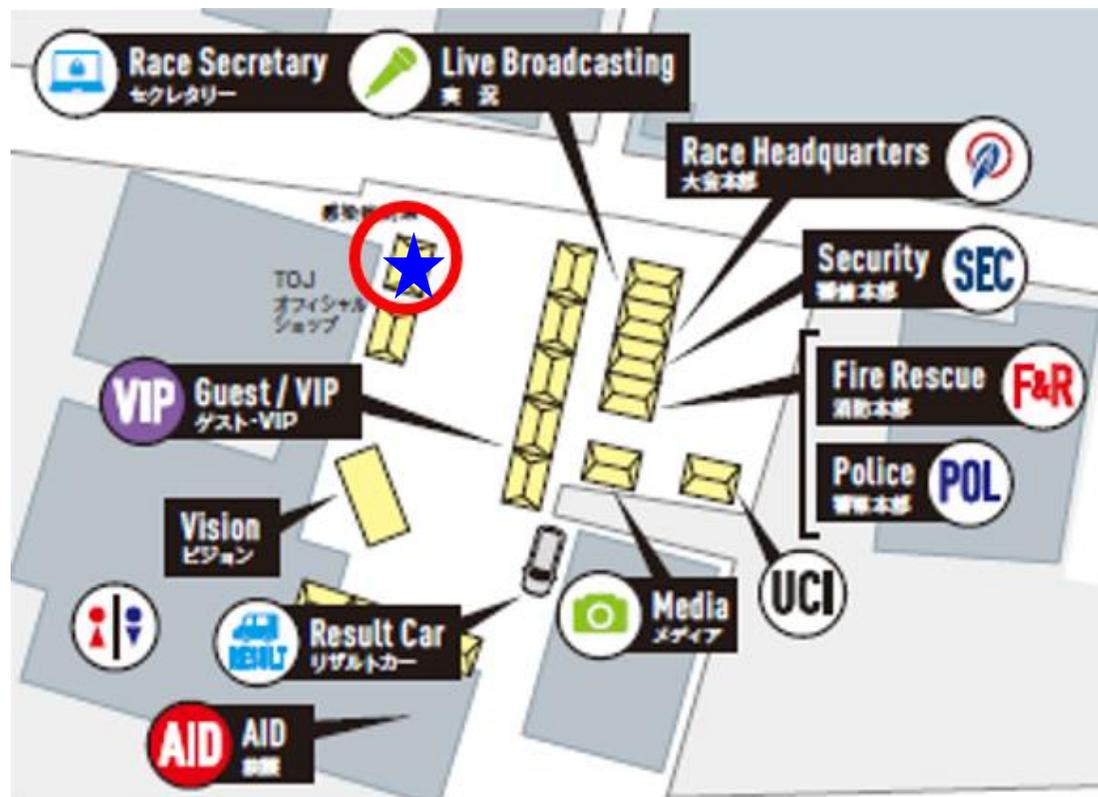


会場における感染対策ブース体制

●信州飯田ステージ

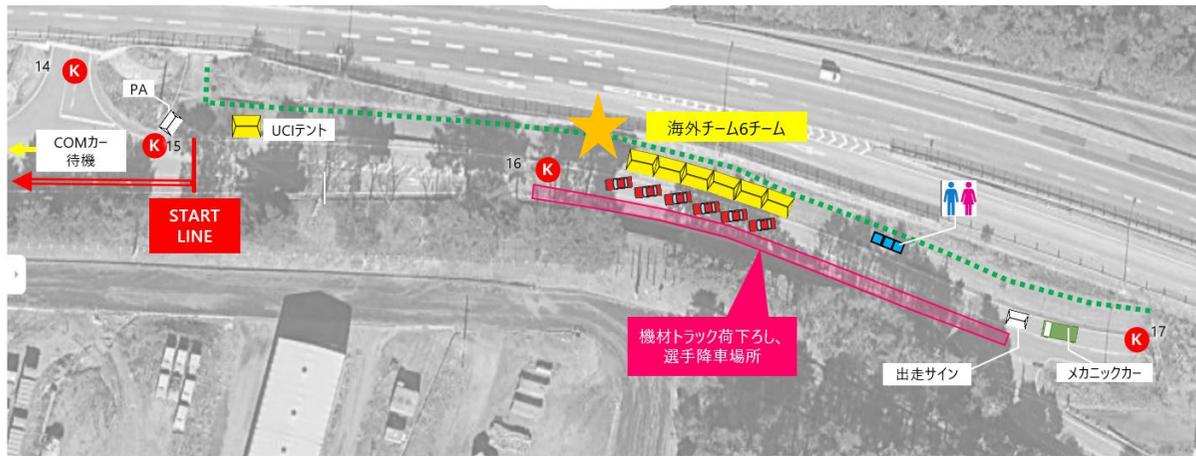
★ : 感染対策ブース

スタート／フィニッシュ(計1か所)

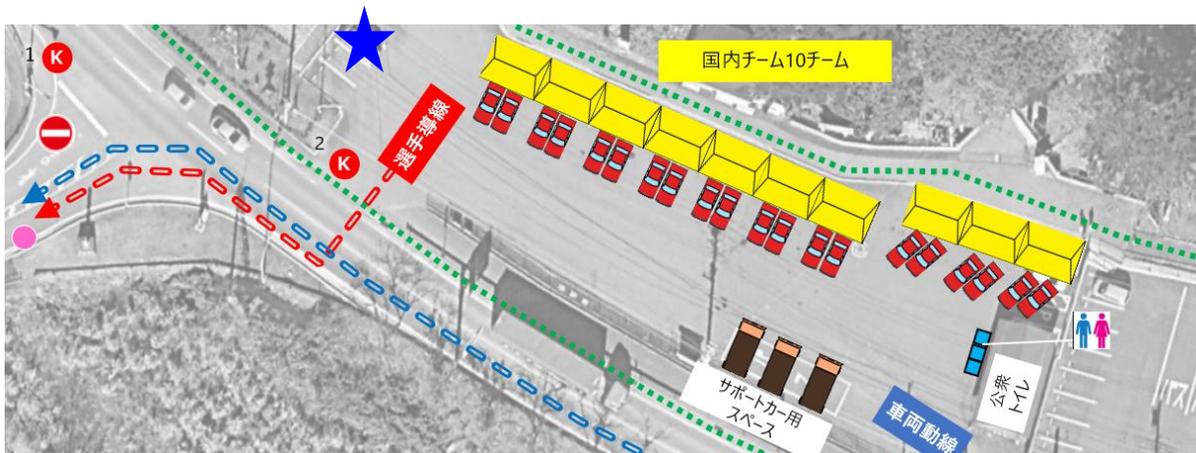


●富士山ステージ

スタート
※海外チームピット側



フィニッシュ(計1か所)
※海外チームピット側

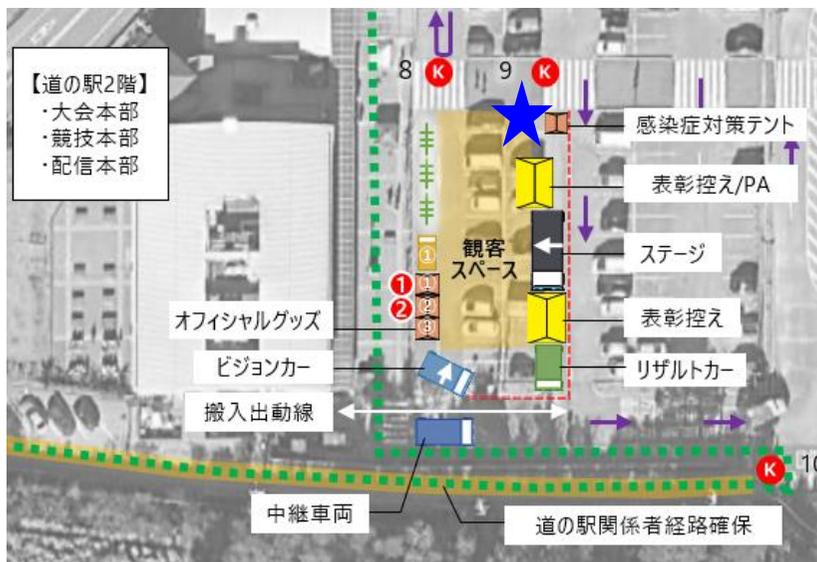


- ★ : 感染対策ブース
- ★ : スタッフ要巡回

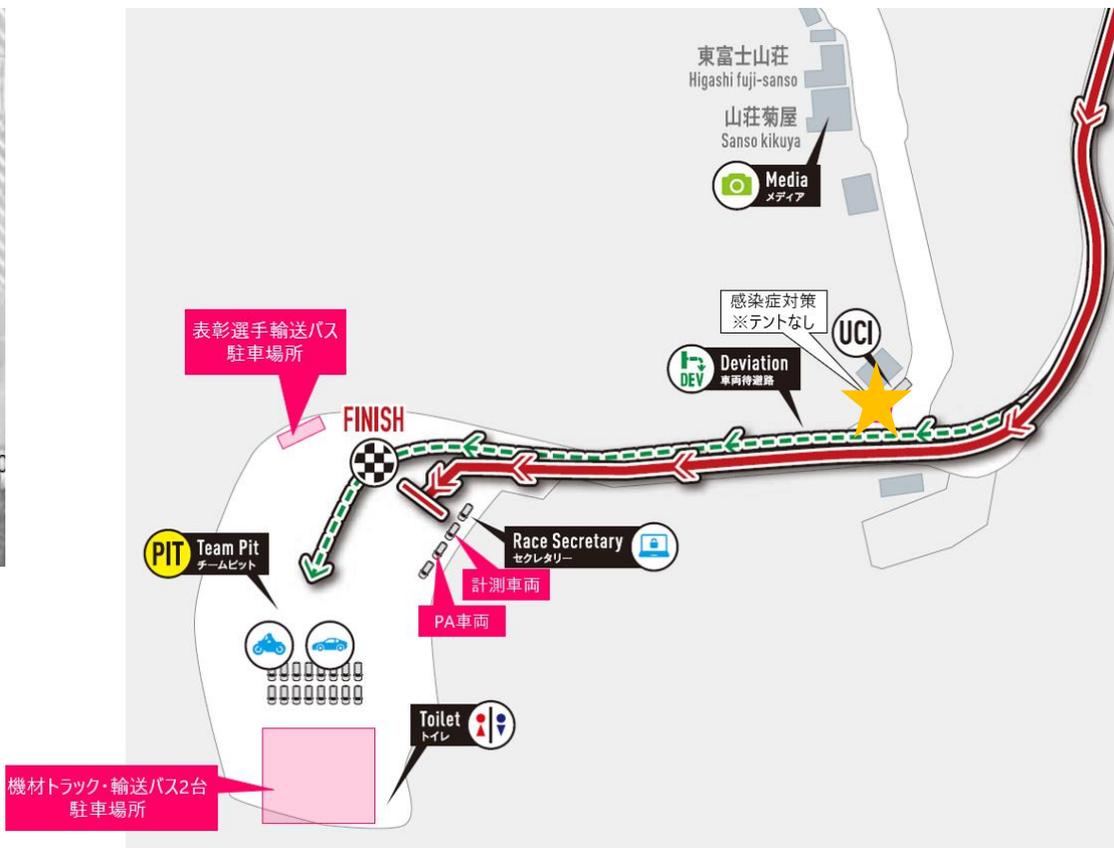
●富士山ステージ

★ : 感染対策ブース
 ☆ : スタッフ要巡回

道の駅すばしり (計1か所)



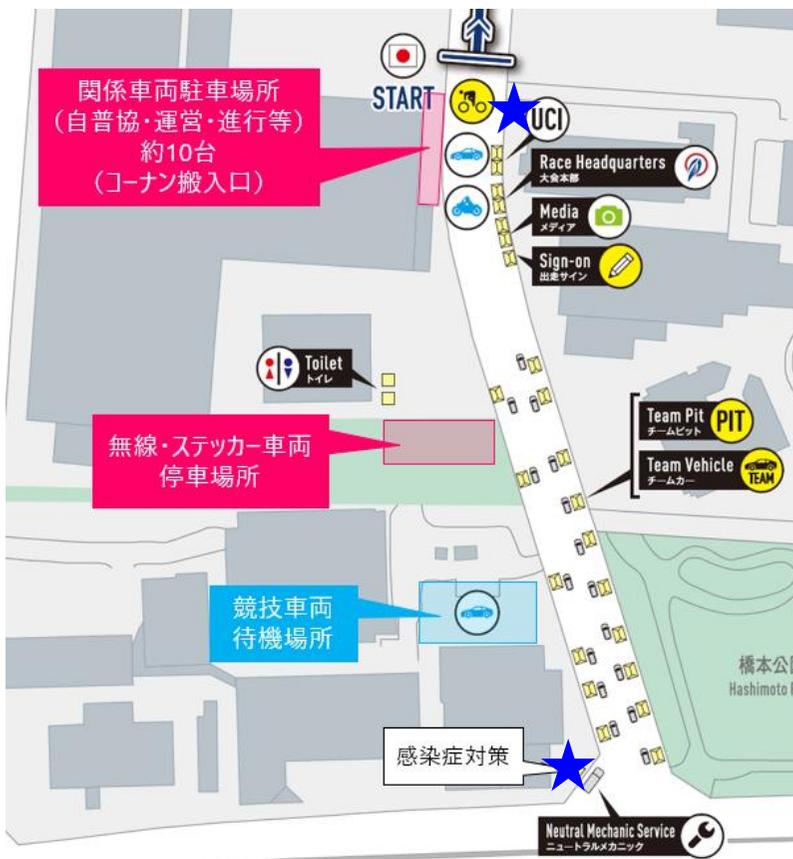
フィニッシュ



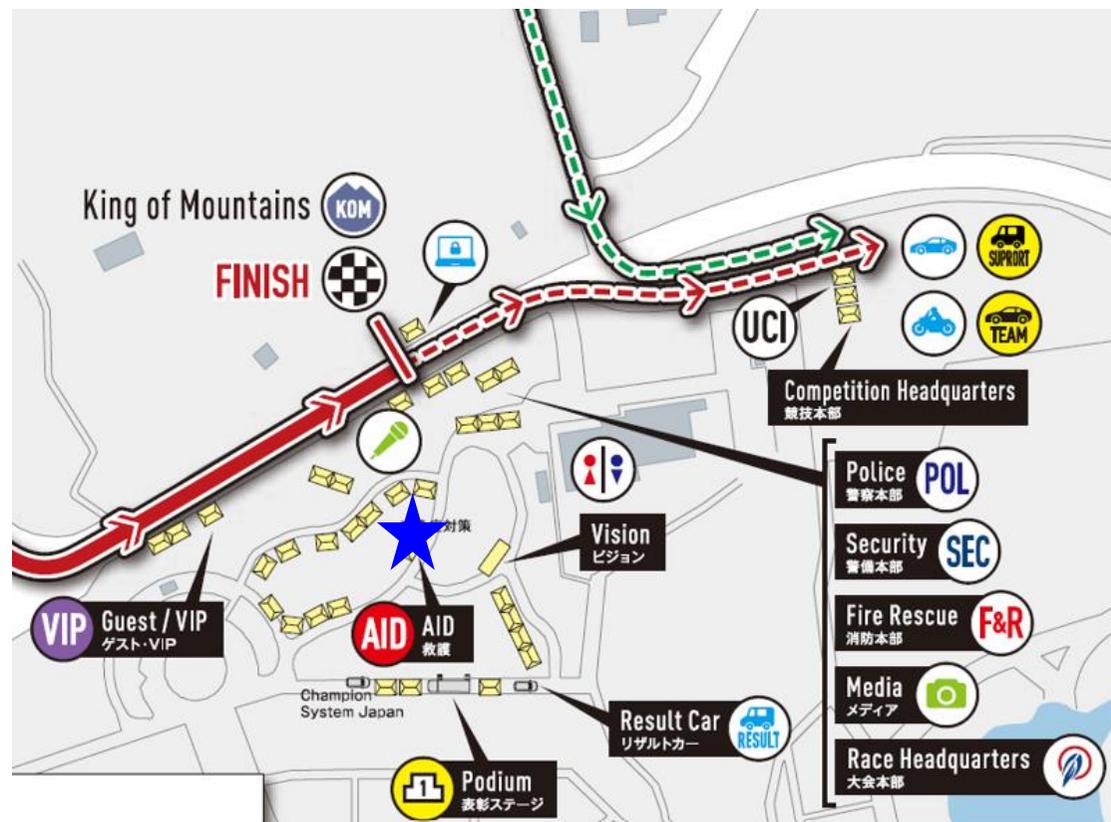
●相模原ステージ

★ : 感染対策ブース

スタート (計2か所)



フィニッシュ (計1か所)

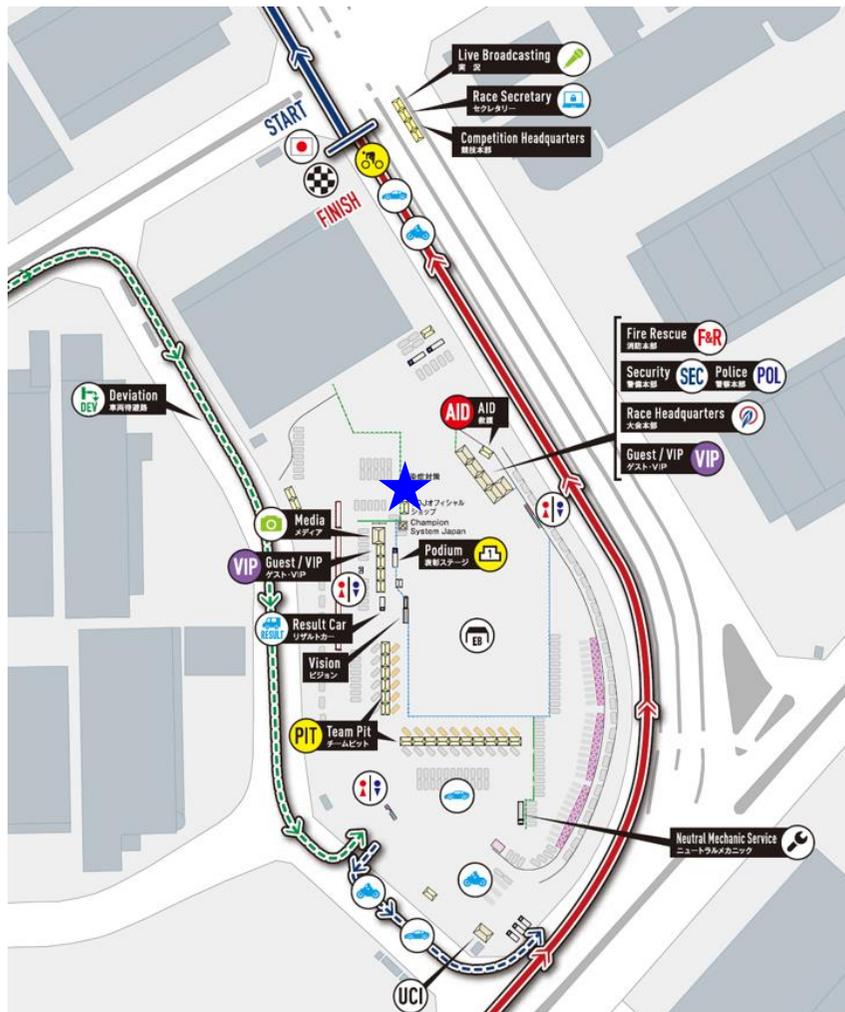


会場における感染対策ブース体制

●東京ステージ

スタート/フィニッシュ(計1か所)

★ : 感染対策ブース



結果報告

Tour of Japan2023では、下記の通り大会前の検査を行い、陰性が確認できた者のみが参加（業務に従事）できるものとした。実施後、陽性の場合のみ、感染対策チームへ連絡をするように促した。

●実施義務について

- チーム：ツアーデスクから抗原検査キットを受け取り次第、速やかに実施 ※遅くとも5月20日（土）中には実施
- コミセール：コミセール会議で抗原検査キットを受け取り、5月20日（土）中に実施
- スタッフ：大会側から事前に送付した抗原検査キットを会場入り24時間以内に実施
※全ステージに従事するスタッフのみ、第4ステージ（美濃）終了後から5月24日（水）23:59までに再度実施
- マーシャル：実施義務なし

●結果

	抗原検査1回目	うち陽性	抗原検査2回目	うち陽性
チーム	163件	0件 (陽性率0%)	—	—
コミセール+JCF	32件	0件 (陽性率0%)	—	—
スタッフ	197件	0件 (陽性率0%)	122件	0件 (陽性率0%)

Tour of Japan2023では、下記の通り、大会会場入り24時間以内の入力を促し、体調に異常の無い者のみが参加（業務に従事）できるものとした。

●対象者について

チーム、コミセール、スタッフは、1度のみフォームの入力を行うよう求めた。

●結果

区分	事前申告数	回答数	回答率
チーム関係者	163	118	72.3%
コミセール	32	23	71.8%
スタッフ	197	174	88.3%
全体	383	315	82.2%

各会場における感染対策ブース 集計結果

堺ステージ 5/21(日)

	会場検温
検温人数	2
再検温	0
マスクお渡し	0

京都ステージ 5/22(月)

	スタート検温	フィニッシュ検温	合計
検温人数	3	0	3
再検温	0	0	0
マスクお渡し	0	0	0

いなべステージ 5/23(火)

	スタート検温	会場検温	フィニッシュ前検温	合計
検温人数	0	9	1	10
再検温	0	0	0	0
マスクお渡し	0	0	0	0

美濃ステージ 5/24(水)

	スタート検温	フィニッシュ検温	合計
検温人数	0	0	0
再検温	0	0	0
マスクお渡し	0	0	0

各会場における感染対策ブース 集計結果

信州飯田ステージ 5/25(木)

	会場検温
検温人数	0
再検温	0
マスクお渡し	0

富士山ステージ 5/26(金)

	スタート検温	フィニッシュ検温	国内チーム検温	合計
検温人数	0	0	0	0
再検温	0	0	0	0
マスクお渡し	0	0	0	0

相模原ステージ 5/27(土)

	スタート検温	フィニッシュ検温	合計
検温人数	3	2	5
再検温	0	0	0
マスクお渡し	0	0	0

東京ステージ 5/28(日)

	会場検温
検温人数	0
再検温	0
マスクお渡し	0

全ステージ合計

	会場検温
検温人数	20
再検温	0
マスクお渡し	0

●個別対応について

大会中、感染対策チームとして下記12件の個別対応を行った。

	日	種別	症状・対応	現地での 抗原検査	病院受診 PCR検査	経過・事後対応
1	5月22日	メカニック	発熱（39.0℃）、喉の痛み、悪寒により医療機関受診	実施無	陽性	自身にて帰宅
2	5月26日	選手	発熱（38.0℃） ホテルにて抗原検査実施	陽性	不明	チームから離脱
3	5月26日	監督	咳 上記1および2と同チームのため抗原検査実施	陽性	不明	チームから離脱
4	5月26日	メカニック	無症状 上記1および2と同チームのため抗原検査実施	陰性	なし	ツアー参加継続
5	5月26日	チームスタッフ	無症状 上記1および3と同チームのため抗原検査実施	陰性	なし	ツアー参加継続
6	5月26日	選手	無症状 上記1および4と同チームのため抗原検査実施	陰性	なし	ツアー参加継続
7	5月26日	選手	無症状 上記1および5と同チームのため抗原検査実施	陰性	なし	ツアー参加継続
8	5月26日	選手	無症状 上記1および6と同チームのため抗原検査実施	陰性	なし	ツアー参加継続
9	5月26日	選手	無症状 上記1および7と同チームのため抗原検査実施	陰性	なし	ツアー参加継続
10	5月26日	選手	無症状 上記1および8と同チームのため抗原検査実施	陰性	なし	ツアー参加継続
以上、1～10は同チーム						
11	5月26日	チームスタッフ	発熱（38.0℃） ホテルにて抗原検査実施	陽性	不明	感染対策チーム車両により自宅まで送迎
12	5月26日	通訳スタッフ	発熱（感染対策チームの対応なし） 自身にて配布された抗原検査実施	陽性	不明	自身にて帰宅

1. 検査体制

- ・チーム、コミセールは会場入り時に速やかに実施、スタッフは会場入り24時間以内に実施する検査体制をとった。なお、全日程参加のスタッフにおいては美濃ステージ終了後に2回目の検査を実施した。
- ・5月19日の会場入り後はチームの宿泊するホテルに医療資格者が帯同し、体調不良者の発生時に迅速に検査可能な体制を整えた。
- ・抗原検査は、結果が陰性であることを実施者本人が確認し、陽性であった場合には感染対策チームへ報告を行う方式とした。

2. 健康チェックフォーム

- ・Googleフォームを活用したオンラインの健康チェックを実施し、会場入り前5日間の体調不良の有無について回答を受付けた。なお、体調不良有りの回答は1件も無かった。
- ・入力回数を会場入り24時間以内の1度のみとし、且つ、「体調不良の有無」を選択式で聞き取る設問形式としたことにより、未入力や誤入力を低減させることができた。

3. 各会場の感染対策ブース

<検温機器について>

- ・昨年に引き続き、自立スタンド式の検温器を使用した。
- ・原則として屋内使用を想定した機材のため、テント等により直射日光を避けることや電源の確保が必要となるが、測定速度が速く、大人数が訪れる本大会においても滞りなく検温をすることが可能である。

<テント設置>

- ・前述の理由によりテントの設営は必須となるが、今年は来場者の検温が任意であったため、テントの横幕を三方向に設置した。結果として、昨年よりも直射日光の影響を受けないレイアウトを整えることが可能となった。
- ・強制的な検温体制をとらなかったが、意識的に検温を行う来場者もあり、不安を払拭する観点からも感染対策ブース設置の意義があったと考える。COVID-19が感染症分類で5類となった後でも、検温や消毒など最低限の感染対策を行っていくことが望ましい。

<不織布マスク付け替えについて>

・2023年5月8日をもってCOVID-19が感染分類上で5類に引き下げられたことを受け、感染対策としてのマスク着用は個人での判断に委ねられることになった。特に屋外においては必要性や熱中症のリスク等を鑑みて、強制的にマスクを着用させる義務はないものとする。

ただし、屋内でのイベントで人が密集する場合や、屋外でもテント内（横幕付き）などで換気が妨げられる状況、飲食を伴う状況においては、引き続きマスク着用を促していくことも必要である。感染リスクに対する意識には個人差があるが、原則は不安を抱く方に配慮した対策を講じることが望ましいと考える。

4. 陽性者発生時の「濃厚接触者疑い」への対応

・感染分類引き下げに伴い、厚生労働省の指針として濃厚接触者の抽出は行わないこととなった。

しかし、今回は本大会の特性（長期間のツアーレース、車両での長時間移動、相部屋、食事形式など）から、クラスター発生を防止するため、主催者判断により濃厚接触者（陽性者と同チームのメンバー）に対し抗原検査を実施した。

結果、追加で1名陽性者が判明し、更なる感染の蔓延を防ぐことができたと考察する。（陽性者はチーム・ツアー全体から離脱）

5. TOJ2023におけるコロナ対策実施の結果

・本対策業務の実施により、TOJ大会期間中～終了後において、クラスター発生に伴うイベントの中止などに至ることなく安全なレース運営を行うことができた。

6. TOJ2023における本調査研究の検証

●抗原検査

<検査体制>

2022年 レースバブル : 会場入りの72時間前に実施 (レースバブルのみ、抗原検査ではなくPCR検査にて実施)
セミバブル : 会場入りの72時間前と24時間以内に2度実施

2023年 バブル方式の廃止

チーム関係者 : 会場入り日に支給し、速やかに実施

コミセール : コミセール会議にて支給し、速やかに実施

スタッフ : 事前送付の抗原検査キットにて、会場入り24時間以内に実施

また、全日程従事するスタッフのみ第4ステージ (美濃ステージ) 終了後、5月24日中に2度目の検査を実施

<考察>

今大会においては抗原検査の陰性結果の写真を収集しなかったが、感染対策をより確実なものとするには検査結果の写真を収集することも必要である。さらに精度を上げる場合は、検査方法を統一するための検査スタッフの配置や検査会場の手配が必要となる。それらの手配に伴うコストや労力を考慮すると、今回の検査体制は妥当であったと考える。

●行動履歴と健康チェックフォームの入力

- 2022年 媒体：健康管理アプリ「テレサ」を使用し大会10日前から毎日記録
 告知：iOS、アンドロイド毎にインストールのご案内および登録手順書を配布
 その他：入力漏れはアプリのプッシュ通知を活用
 実施した抗原検査の写真をアプリ上でアップロードし提出（陰性証明）
 アプリストアのリージョン規制により、一部の海外在住の方が使用できず、Googleフォームで代用
- 2023年 媒体：Googleフォームを使用し大会5日前からの経過を、会場入り24時間以内に1度回答
 告知：事前案内に加え、チーム関係者やコミセールは会場入りの際に、抗原検査キットと同時に入力手順書を配布
 スタッフは事前に抗原検査に同封して発送
 その他：行動履歴の項目は設けず、健康記録のみ収集
 入力漏れは帳票を確認し、個人へ電話連絡
 在住地域に関わらず、Googleフォーム一律での運用

<考察>

今大会は海外から6チームの参加があったため、アプリのリージョン規制の影響がないGoogleフォームを使用して健康記録の収集を実施した。

なお、2021年も「Googleフォーム」を使用した結果として未回答率の高さが課題となった。今大会も未回答率が懸念されたが、事前の十分な告知に加えて、健康記録の入力回数や回答選択数を絞ったことから、回答率の低下を防ぐことができた。

●検温所

- 2022年 自立型・消毒噴霧内臓のサーモグラフィ検温機器を用いての検温
- 2023年 自立型・消毒噴霧内臓のサーモグラフィ検温機器を用いての検温

<考察>

前回大会と同じ機器を使用したため、問題なく検温の運用を行うことができた。

7. 伊藤医師(感染対策監修医師、TOJ帯同医師)による考察

●抗原検査

今大会は海外から6チームの参加があり、各国の感染状況が不明確な中で、海外チームを含む全てのチームおよびコミセールに、会場入り当日の抗原検査実施を求めた。また、スタッフにおいても、会場入り24時間以内の実施を求め、さらに、全日程従事するスタッフのみ、大会4日目に2回目の検査を実施する方式をとった。

一般的には、無症状の場合は事前の抗原検査を行っておらず、医学的な推奨度も低い。大会での感染蔓延の抑止や予防的観点として、上記の抗原検査の実施は有効であったと考えられる。

●感染対策チームの同行

全ての行程において感染対策チームが同行し、チームの宿泊するホテルにて体調不良者が発生した際も、速やかに抗原検査が実施できるよう十分な体制を整えた。実際に、大会期間中に体調不良者が発生したが、複数名のCOVID-19陽性者を迅速に抽出できたことが、今大会の感染蔓延の予防（クラスター発生の予防）へつながったと推察する。

●陽性者発生時の対応

今大会は、本国のCOVID-19に対する感染症法での分類が2類から5類に引き下げられた直後であり、且つ、「1週間にわたる大会期間」「車両での長時間移動」など感染蔓延のリスクを伴う大会の特徴から、COVID-19陽性者が発生した際の隔離期間や濃厚接触者に対する医学的および行政的な対応について配慮が必要であった。

大会期間中に陽性者の発生したチームがあったが、大会主催者と感染対策チームが随時情報共有を行い、対応を相談した結果、蔓延防止の観点から、感染蔓延のリスクの高いチームに対して抗原検査を実施した。対象チームの全員が検査を実施したところ、チーム内に新たに1名の陽性者が判明し、陽性者はチームから離脱となった。

ただし、最終的には全行程において、クラスター発生によるチームの棄権には至らなかったことから、上記のような積極的な抗原検査の実施が、更なる感染の蔓延を防ぐことに効果的であったと考える。

手配物、会場の様子

●関係者配布物

備品	数量	備考
ハンディタイプ非接触型検温機	16	-各チーム1個（16チーム）希望制
消毒液噴霧器（ボトル）	83	-出場チーム16本 -設営運営チーム10本 -宿泊輸送チーム10本 -広報チーム3本 -主催者6本 -他運営会社や会場内設置38本
消毒液噴霧器（トリガータイプ）	10	-全体予備10本
飛沫防止パネル	9	-ライセンスコントロール3枚 -ツアーデスク2枚 -実況席3枚 -予備1枚
フェイスシールド	900	「設営・運営」「宿泊輸送」「広報業務」「出場チーム」「主催者」へ日数配布 * 個包装マスクは検温所にて 不織布マスク以外の方へ配布
マスク	4,240	
個包装マスク	800	
ゴム手袋	2,420	
救急セット	一式	

●帯同医師診察・検査キット *伊藤医師が所持

備品	数量	備考
救急セット	一式	体調不良者対応用
緊急抗原検査キット	一式	現地での検査用 * 会場内、宿泊先を想定

●感染対策ブース、感染対策チーム所持

備品	数量	備考
サーマルカメラ (BS-K1TA70MI-T)	6	2022年購入分 (メイン利用)
非接触型サーモグラフィ (FLIR E4-XT)	2	2021年購入分 (予備利用)
ハンディタイプ非接触型検温機	適量	貸出希望が無かった分を活用
感染対策注意喚起看板	4	
感染対策注意喚起プラカード	5	
防護服	10	
除菌シート (100枚入り)	30	
会場内感染対策ブーステント	5	テーブル込
消毒液噴霧器 (トリガータイプ)	10	感染対策チーム場内消毒用
TOJ感染対策スタッフビブス	150	17名×8日分+予備

● キット名：Anywhere迅速抗原検査

▼検査キット



▼ご案内資料

ツアー・オブ・ジャパン 2023
抗原検査キットおよび健康チェックフォームのご案内

ツアー・オブ・ジャパン 2023 感染対策チームより、「抗原検査キット」および「健康チェックフォーム」についてご案内いたします。ご確認のほどよろしくお願いいたします。

●抗原検査キット
<お渡しについて>
チーム：ツアーデスクに用意しておりますので、会場入りした日に検査をお願いいたします。
コミセール：5月20日のコミセール会議にてお渡しいたします。20日中に検査をお願いします。

検査方法はキットに同封されている「Anywhere迅速抗原検査の手順（鼻腔）」をご確認ください。

<陽性だった場合>
感染対策チームまでご連絡ください。
▼連絡先
株式会社ピースフル 山崎
携帯電話：080-9827-2547
メール：yamawaki@peaceful-hp.com

※陰性の場合、検査結果をご連絡いただく必要はございません。

●健康チェックフォーム
会場入り前 24時間以内に1度のみご回答ください。健康チェックの期間は、会場入り前の5日間となります。
例：5月20日（土）会場入りの方は
→5月18日（月）から5月19日（金）の5日間における健康状態

QRコード▶

以上

Tour of Japan 2023
Information on antigen test kits and health check forms

Tour of Japan 2023 Infection Control Team will inform you about the "antigen test kit" and "health check form". Thank you for your confirmation.

●Antigen test kits
<Inspection date>
Please pick up the kit at the "tour desk" and take the inspection on the day you enter the venue.

<Inspection method>
Please check the picture of "Anywhere rapid antigen test procedure (nasal cavity)" enclosed in the kit. If you have any questions, please contact the infection control team.

<If it is positive...>
Please contact the infection control team as soon as possible.
▼Contact address (Infection Control Team)
Takayoshi Yamawaki
tel : 080-9827-2547
mail : yamawaki@peaceful-hp.com

Positive? Please contact the infection control team.

Should? Please check again.

If it is negative, there is no need to inform us of the test results.

●Health check forms
We ask that you enter your contact information within 24 hours of entering the venue. The target period is 5 days before entering the venue.

QRcode▶

That all.
Thank you for your cooperation.

●配布物（チーム・大会関係者）

<配布>

チーム：監督会議（コンフォートホテル堺）にて配布

大会関係者：大会事務局（コンフォートホテル堺）および堺ステージにて配布

<内容> COVID-19感染対策マニュアル（日/英）、アルコール消毒液、マスク

▼配布物の梱包の様子



▼配布物の内容



▼会議の様子



▼非接触検温器（希望するチームへの配布用）



▼テント



▼サーマルカメラ (Bitstrong社 BS-K1TA70MI-T)



▼非接触型サーモグラフィ (FLIR E4-XT)



▼注意喚起看板



▼プラカードの掲出、 スタッフビブス着用の様子



◀スタンド式アルコール消毒液



▼発電機



▼アルコール消毒液



▼マスク (左: 10枚包装)



▼ゴム手袋



▼フェイスシールド



▼陽性者対応時用備品



▼アルコール消毒セット



▼感染対策ブース



▼スタート前のマスク回収の様子



▼各ブースへアルコール消毒液を配布



▼スタート地点



▼アルコール消毒液の設置



▼フィニッシュ地点



▼スタート地点



▼フィニッシュ地点



▼アルコール消毒の様子



▼スタート地点



▼フィニッシュ地点



▼感染対策ブース



▼看板設置の様子



※フィニッシュ地点は強風のため感染対策ブースの設置無し。

▼スタート地点



▼表彰セレモニー地点



▼定期的な消毒の様子



▼スタート地点



▼フィニッシュ地点



▼感染対策ブース



▼出走サインにてペンを消毒する様子





HANDMADE BICYCLE 2024

2024年1月20日（土）、21日（日）

【開催概要】

- 開催日 : 2024年1月20日（土）・21日（日）
- 開催時間 : 20日 10:00～16:50／21日 9:30～16:30
- 会場 : 科学技術館催物場（1～5号館）（<https://www.jsf.or.jp/guide/#post-2539>）
- 主催 : （一財）日本自転車普及協会 自転車文化センター
- 後援 : 自転車活用推進議員連盟／自転車活用推進本部
- 展示内容 : 国内外ハンドメイドバイシクルビルダー、パーツメーカーが経験と実力で生み出した「独創性あふれる自転車」や斬新な機構を取り入れた「独創性の高いパーツ」の展示、自転車ビルダー、スペシャルゲストによる「トークショー」などの様々な企画を実施。

- トークイベント : ハンドメイドビルダー及び著名人によるトークイベントを開催。

- その他イベント : シュアラスター×サイクルデザイン専門学校presents 水なし洗車教室を開催。（体験無料）

- 入場料 : 無料

アトリエ・キノピオ

Abukuma (アブクマ)
あぶくま自転車工房

アマンダスポーツ&ミニラボアマンダ

WELD ONE OGRE bicycle
(ウェルドワン オーガバイシクル)

EQUILIBRIUM CYCLE WORKS
(エクイリブリウム サイクルワークス)

大槻輪業社 (オオツキリンギョウシャ)

CARACLE (カラクル)
株式会社テック・ワン

Grandbois (グランボア)
サイクルグランボア株式会社

CHERUBIM (ケルビム)
有限会社今野製作所

GOKISO (ゴキソ)
株式会社近藤機械製作所

COLUMBUS (コロンプス)
株式会社日直商会

SHIZTECH (シズテック)

GIRAFFE (ジラフ)
フィールドエクイップメント ジラフ

シルク テンション
絹 自転車製作所

Shin (シン)
Shin・服部製作所

SOYOTYRE (ソーヨータイヤ)
大和紡績株式会社

たつみ商会
有限会社たつみ商会

TANGE
株式会社エンマバイシクルワークス

T&K Titanium (ティーアンドケー タイタニウム)
株式会社スマートコグ

DE ROSA (デローザ)
株式会社日直商会

東京サイクルデザイン専門学校
(トウキョウサイクルデザインセンモンガッコウ)
学校法人水野学園 東京サイクルデザイン専門学校

TOEI (トーエイ)
東叡社

Dobbat's (ドバッツ)
ドバッツ・ライノ・ハウス

NITTO (ニットウ)
株式会社日東

BIKE&HIKE (バイクアンドハイク)

Bakansucycles (バカンスサイクルズ)
BYOB Factory Tokyo (ビョブファクトリートウキョウ)

PATTO BIKE (パットバイク)
平和技術研究所

5 LINKS (ファイブリンクス)
合同会社 5 LINKS

フジチカ
有限会社フジチカ

HELAVNA CYCLES (ヘラブナサイクルズ)
Helavna Cycles

VELcletta (ベルクレッタ)
自転車工房ベルクレッタ

HONJO (ホンジョ)
株式会社本所工研

MAKINO (マキノ)
有限会社エム、マキノサイクルファクトリー

Mahogany bike (マホガニーバイク)
Sanomagic

YANAGI (ヤナギ)
柳サイクル

ラクラックーン
堀田製作所

RAVANELLO (ラバネロ)
プロショップ タカムラ製作所

マツダ自転車工場

OnebyESU (ワンバイエス)
東京サンエス株式会社

【主催者特別展示】

自転車活用推進本部
ナショナルサイクリングルートの紹介

福井県
サイクリングコースの紹介

茨城県
サイクリングコースの紹介

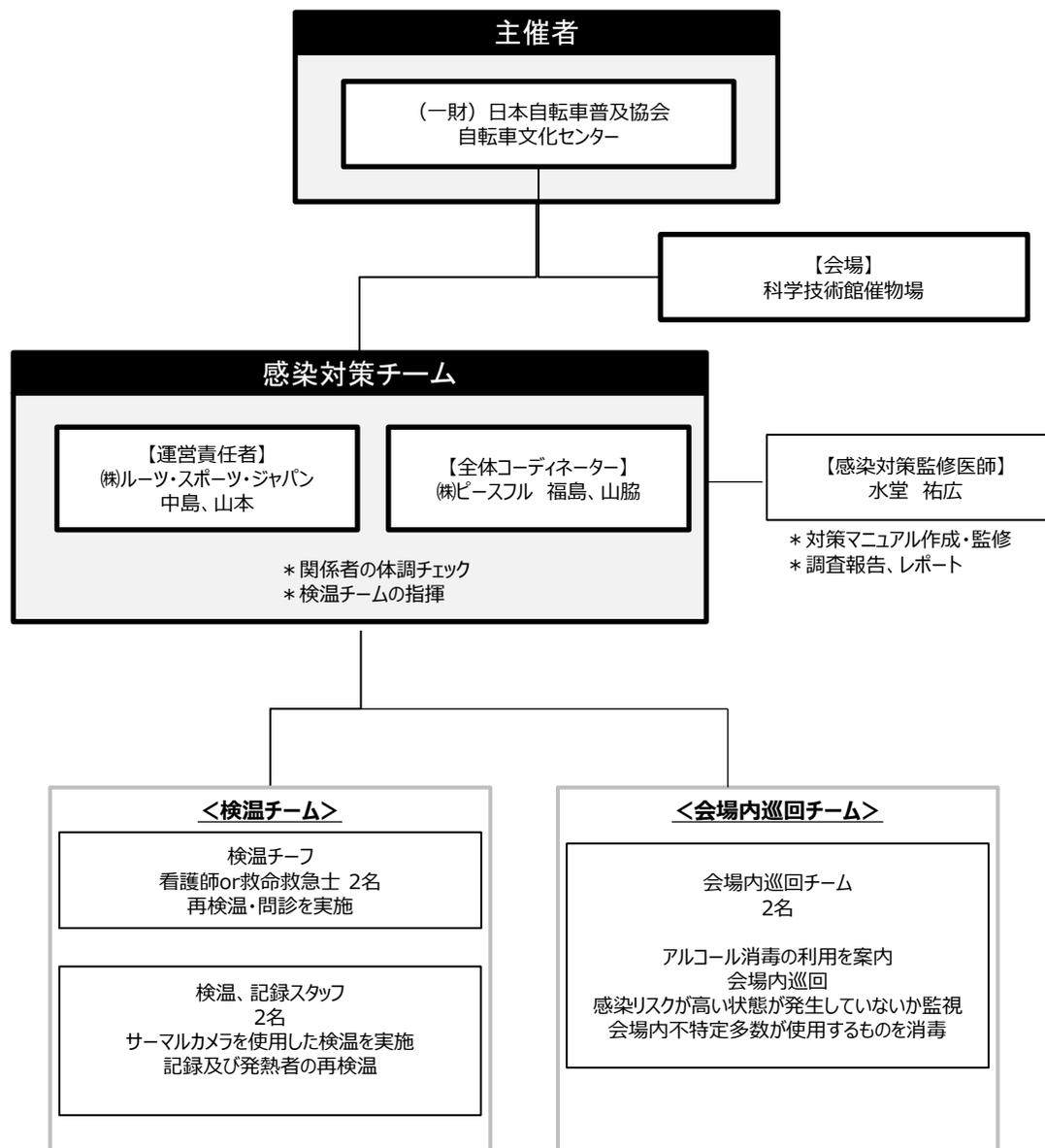
NTN株式会社
まわる学校体験

2024ハンドメイドバイシクル展における 感染対策実施概要（感染対策マニュアル抜粋）

- (1)感染対策チームの設置、帯同
- (2)HMBホームページにおいて関係者・来場者に向けた本ガイドラインの掲載及び周知
- (3)開催当日に体調が悪い場合は、主催者に連絡の上、来場しない
- (4)関係者は、イベント終了後1週間は各自の体調変化に留意し、発熱や体調不良等の症状が表れた場合は、主催者に申告
- (5)イベントで規定された関係者は、会場入り後速やかに抗原検査（定性または定量）を実施し、陰性を確認
- (6)感染者発覚後のプロセスの明確化
- (7)会場の各所に、手指消毒液及び感染防止対策注意喚起看板を配置
- (8)イベント会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底
- (9) 会話が発生する場所では飛沫防止パネルを設置する。
- (10)以下に該当する方は、イベントへのいかなる参加（会場への来場含）も不可とする
 - ①イベント当日に、下記a～dを含む体調不良のある方
 - a. 体温37.5℃以上
 - b. 強い倦怠感
 - c. 感冒様症状（咳、咽頭痛、息苦しさ等）
 - d. 味覚、嗅覚異常などの異変がある
 - ②PCR、LAMP、抗原検査受診結果が陽性で、下記に該当する方
有症状で、発症日から7日未満、かつ症状軽快後48時間以内

* 無症状病原体保有者では、再検査で陰性を確認できない方は、参加について医師に相談

感染対策チーム組織体制図



感染対策マニュアル作成

主催者、感染対策チーム、その他主要運営スタッフに配布（全15ページ）



INDEX	
■はじめに	
本マニュアルの目的	3
用語の定義	3
■HMB開催におけるCOVID-19 対策ガイドライン	
HMB開催における対策事項	5
開催期間中の注意点まとめ	7
開催中止の判断基準	7
■感染対策チーム	
組織体制図	8
■感染対策連絡先一覧	
感染対策担当者	9
会場近辺の医療機関位一覧	9
■会場における検温体制	
感染対策ブース（検温テント）の概要	10
会場内ブース配置図	11
■会場設置注意喚起看板	
注意喚起看板	12
■感染疑い発生時の対応フロー	
感染疑い発生時の対応フロー	13
■感染対策備品リスト	
感染対策備品リスト	14

抗原検査の実施

ビルダー各社ごとに必要な抗原検査キット数を確認し、会場にて検査キットと下記案内用紙を配布。

各自で陰性であることを確認し、陽性の場合のみ感染対策チームに連絡必須とした。

▼案内用紙

2024 ハンドメイドバイシクル展
抗原検査キットのご案内

感染対策チームより、「抗原検査キット」についてご案内いたします。ご確認のほどよろしくお願いたします。

<お渡しについて>
会場内にて、各団体の代表者様へキットを**人数分**お渡しさせていただきます。

検査方法はキットに同封されている「Anywhere 迅速抗原検査の手順（鼻腔）」をご確認のうえ、キットお受け取り後、速やかに検査を行ってください。

※会場入り目に関わらず、検査キットは1人1つのお渡しとなります。

<陽性だった場合>
感染対策チームまでご連絡ください。
▼連絡先
株式会社ピースフル 山脇
携帯電話：080-9827-2547
メール：yamawaki@peaceful-hp.com

※陰性の場合は、検査結果をご連絡いただく必要はございません。

最後になりますが、昨年までご協力いただいております「健康チェックシート」につきましては実施いたしません。開催当日に体調が優れない場合は、主催者に連絡の上、来場をお控えください。
また、20日（土）21日（日）は会場内に感染対策ブースを設けておりますので、何かございましたらお立ち寄りください。

季節型インフルエンザの流行する季節でもあります。基本的な感染対策の徹底にご協力をお願いします。

以上

▼配布管理表

■ハンドメイドバイシクル展2024 抗原検査キット配布管理シート						配布数				
農社名	農社名(フリガナ)	ブランド表示名	代表者氏名	ご担当者氏名	人数	【合計】 配布数	1/19(金)	1/20(土)	1/21(日)	陽性連絡
アトリエ・キノビオ	アトリエ・キノビオ	アトリエ・キノビオ	安田マサテル	安田マサテル						
あぶくま自転車工房	アブクマジテンシャコウボウ	ABUKUMA	坂田 智徳	坂田 智徳						
有)アマンダスポーツ	アマンダ スポーツ	アマンダスポーツ&ミニラボアマンダ	千葉洋三	安堵 勝						
茨城県		茨城県								
WELD ONE	ウエルドワン	WELD ONE OGRE bicycle	小西 栄二	小西 栄二						
EQUILIBRIUM CYCLE WORKS	エクイリブリウムサイクルワークス	EQUILIBRIUM CYCLE WORKS	ラフィニエール パラオズキス	高橋 学						
NTN		NTN株式会社								
大槻輪業社	オオツキノギョウシャ	大槻輪業社	大槻正哉	大槻正哉						
株式会社テック・ワン	カブシキガイシャテック・ワン	CARACLE	代表取締役 吉田明弘	第二創業事業部 久行武志						
サイクルグランボア株式会社	サイクルグランボアカブシキガイシャ	Grandbois	土屋郁夫	土屋郁夫						
有限会社 今野製作所	ユウゲンガイシャ コノセイサクジョ	CHERUBIM	今野 真一	宮田 悠輔						
株式会社近藤機械製作所	カブシキガイシャコンドウキカクセイサクジョ	GOKISO	近藤 豊	郡山 雅仁						
株式会社日直商会	カブシキガイシャニチナオシヨウカイ	COLUMBUS	日向良介	佐々木将宏						
Shiztech	シズテック	Shiztech	静野幸徳	静野幸徳						
自転車活用推進本部		自転車活用推進本部								
フィールドイクイップメント ジラフ	ふいーるどえくいっぷめんと じらふ	GIRAFFE	高津 正明	高津 正明						
絹 自転車製作所	キヌ 自転車製作所	シルク テンション	荒井 正	アライ タダシ						
株式会社Shin・服部製作所	カブシキガイシャシンハツロセイサクジョ	Shin	服部晋也	服部晋也						
大和紡績株式会社	ダイワボウセキカブシキガイシャ	SOYOTYRE	有地邦彦	佐々井宗徳						
有限会社たつみ商会	ユウゲンガイシャタツミシヨウカイ	たつみ商会	巽 義信	巽 義信						
株式会社エンマバイシクルワークス	カブシキガイシャエンマバイシクルワークス	TANGE	松井清隆	松井清隆						
株式会社スマートコグ	カブシキガイシャ スマートコグ	T&K Titanium	西村晃治	田村浩						
株式会社日直商会	カブシキガイシャニチナオシヨウカイ	DE ROSA	日向良介	佐々木将宏						

感染疑似症者発生時の対応

<対応手順>

1. 検温にて37.5度以上を検知
2. 感染対策ブースにて問診及び再検温
3. 発熱または問診の結果、感染が疑われる場合は入場不可の判断
4. 緊急性がある場合は救急搬送、緊急性がない場合は帰宅

感染対策員の配置

会場内の感染対策として感染対策員による清掃や、商談ブース等の利用者が頻繁に利用するものの消毒を定時で実施。また、トークショー終了後毎に、会場の椅子の消毒を実施する。

●方法

清掃員にはグローブ、消毒スプレー、ペーパータオルを携行させて会場内を巡回し監視。
商談が終了したテーブルおよび椅子は、携行品を使用して速やかに消毒を実施。
トークショー会場で使用した椅子は、終了後速やかに消毒を実施。

会場における検温体制

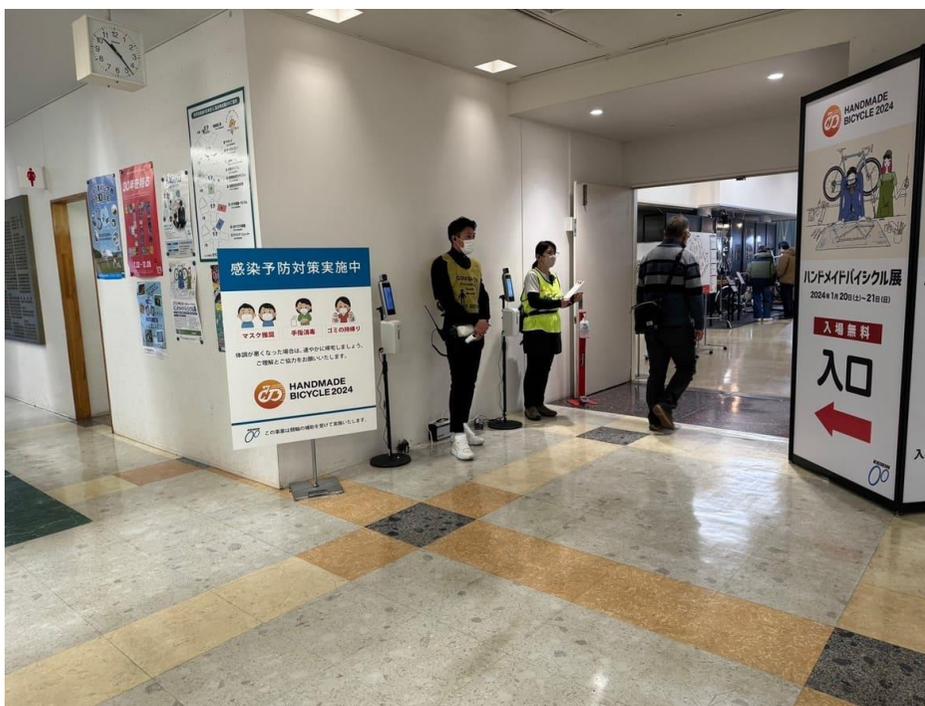
2024ハンドメイドバイシクル展では、会場入口にて参加者が任意で検温が行えるよう、機材を設置した。

●検温フロー

<入場可能> 37.4℃ 以下

<要再検温> 37.5℃以上

<入場不可> 37.5℃以上 または 問診内容に感染の症候等あり

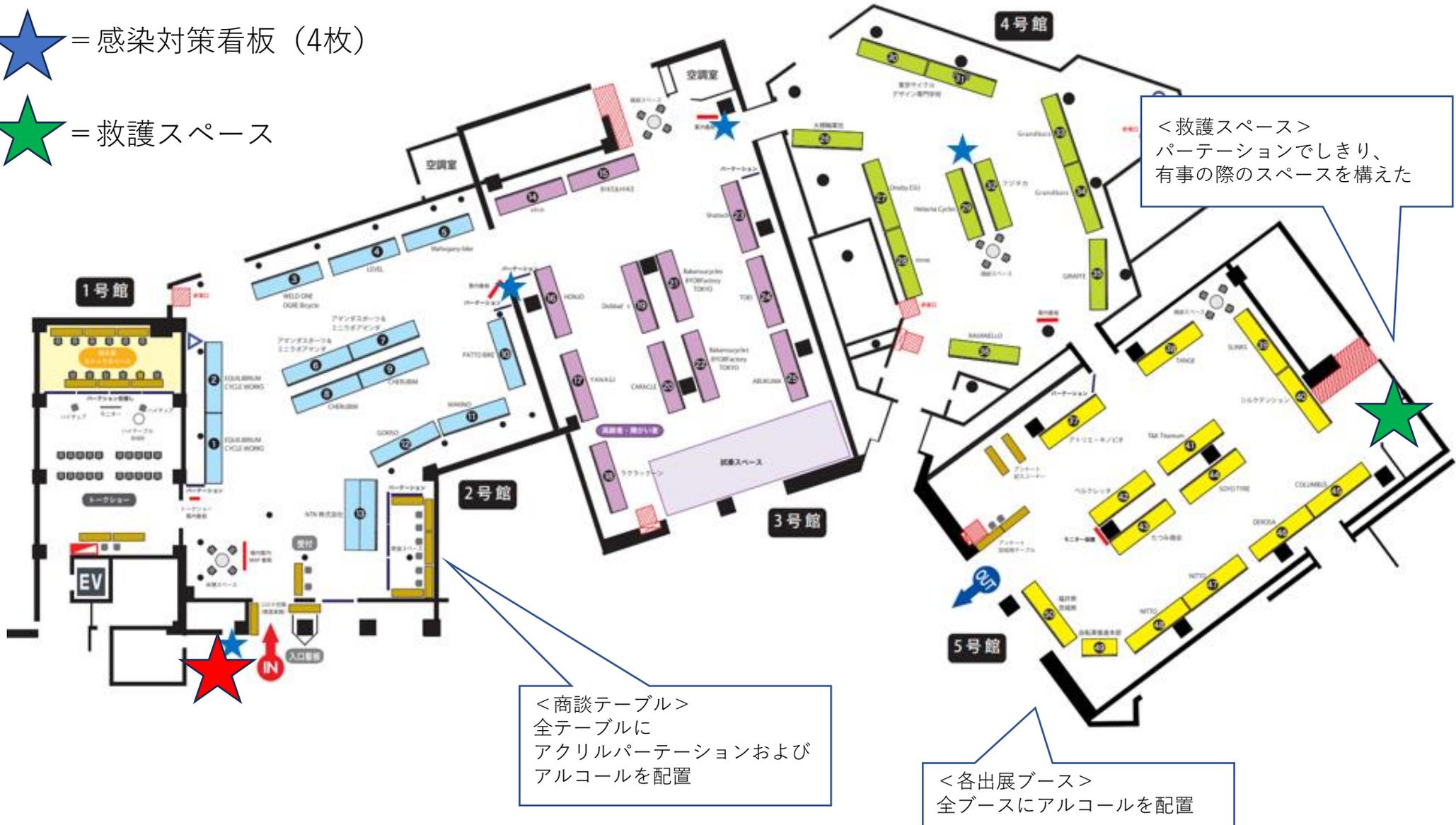


使用機材▶
サーマルカメラ
Bitstrong社
BS-K1TA70MI-T



会場における検温体制

- ★ = 検温
- ★ = 感染対策看板 (4枚)
- ★ = 救護スペース



結果報告

1月20日（土） イベント1日目

入場者数	1,041名
検温実施人数	70名
うち37.5度以上人数	0名
※関係者 抗原検査キット陽性報告	0名
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・マスク配布0件 ・救護対応0件

会場内の様子



1月21日（日） イベント2日目

入場者数	1,095名
検温実施人数	258名
うち37.5度以上人数	0名
※関係者 抗原検査キット陽性報告	0名
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・マスク配布1件 ・救護対応0件



1. 関係者の管理に関する事項

- ・ 関係者各位に抗原検査キットを配布し、各自で陰性であることを確認、陽性者のみ報告するという体制を採った。
- ・ 抗原検査キットを現地で配布するにあたって、出展者総数の変更に伴うキット不足が発生しないよう、予備キットを持参した。
- ・ 昨今の感染症に対する社会情勢から、抗原検査キット配布時にトラブルが発生することも危惧していたが、問題なく全員に配布することができた。
- ・ マスクの着用は強制ではなく推奨ベースであったため、マスクを着用しない出展者が多く見られた。

2. 健康チェック・抗原検査に関する事項

- ・ 「紙面での提出」「フォーム入力」等の健康チェックは実施せず、抗原検査キット配布時に声掛けし、体調不良者がいないことを確認した。
- ・ 抗原検査キットは出展者92個、運営関係者38個、合計130個を配布し、結果が陽性であったという報告は無かった。

3. 検温所の体制に関する事項

- ・ 会場入り口に2台のサーマルカメラ検温器を設置し任意の希望者のみ検温を実施、発熱があった場合は再検温を行う体制を採った。
- ・ 検温する際に他の方の入場時動線を妨げないよう検温器を配置し、検温を希望しない方も手指消毒を行えるようペダル式のアルコールスタンドを設置した。
- ・ 検温スタッフが常駐し、検温者数のカウントおよび希望者へのマスク配布を実施した。
- ・ 検温機は屋内に設置していたものの、体表面温が低いために体温が35.0℃以下となり、計測不可となるケースがあった。
被検温者が検温直前までいた環境の影響を大きく受けるため、降雨や10度を下回るような気温が低い環境では、サーマルカメラを用いた非接触検温では限界があると考えます。ハンディ式検温器の用意に加え、ご来場前の「体調が優れない場合はご来場をお控えください」といった注意喚起を疎かにせず、発信し続けていくこともポイントである。

4. 会場内の管理に関する事項

- ・ 出展ブースには各1個ずつ手指消毒用アルコールを配布し、会場内4カ所に設置された商談ブースにはアクリルパネルを設置した。
- ・ 会場入り口および2、3、4号館には感染対策実施看板を配置した。必然的に看板がご来場者、関係者の目に留まるよう設置したことで、基本的な感染対策を効果的に意識づけられた。
- ・ 巡回スタッフによる巡回および商談ブースの消毒清掃を30分毎に行い、適宜アンケートコーナーの使用済みペンの消毒を実施した。
- ・ 場内の消毒を使用される方も多数見受けられ、COVID-19は5類へ移行したものの、その他の感染症も流行しやすい季節柄、本イベントへの感染対策チームの帯同および物品の設置は、安心安全なイベント運営の一端を担うことができたのではないかと考える。

手配物、会場の様子

【関係者配布物】

備品	数量	配布数	備考
フェイスシールド	20個	0	出展社用+予備
不織布マスク（個包装）	20個	0	関係者配布用（忘れた方）
不織布マスク（個包装なし）	150個	1	来場者配布用（忘れた方）
ゴム手袋	200セット	-	出展社用

【感染対策チーム所持】

備品	数量	配布数	備考
サーマルカメラ（BS-K1TA70MI-T）	2台	-	
ハンディタイプ非接触型検温機	3台	-	
場内感染対策注意喚起看板	4枚	4	
防護服	2着	-	
除菌シート（100枚入り）	5個	-	
消毒液ボトル設置テーブル	2台	2	
飛沫防止パネル	9枚	4	商談テーブル用
手指消毒液	10L	-	
消毒液噴霧器	60本	60	商談テーブル/ビルダー/感染対策ブース
無線	6台	-	
感染対策スタッフビブス	人数分	-	

感染対策スタッフは
下記のビブスを着用



サーマルカメラ
Bitstrong社
BS-K1TA70MI-T

▼抗原検査キット



▼マスク（個包装あり／個包装なし）



▼ゴム手袋



▼サーマルカメラ



▼ハンディタイプ非接触型検温機



▼防護服



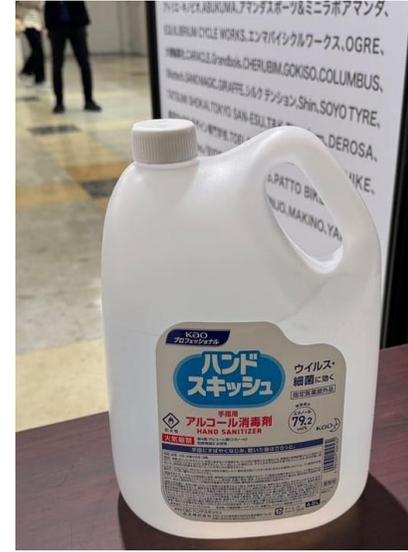
▼除菌シート



▼飛沫防止パネル



▼消毒液



▼無線



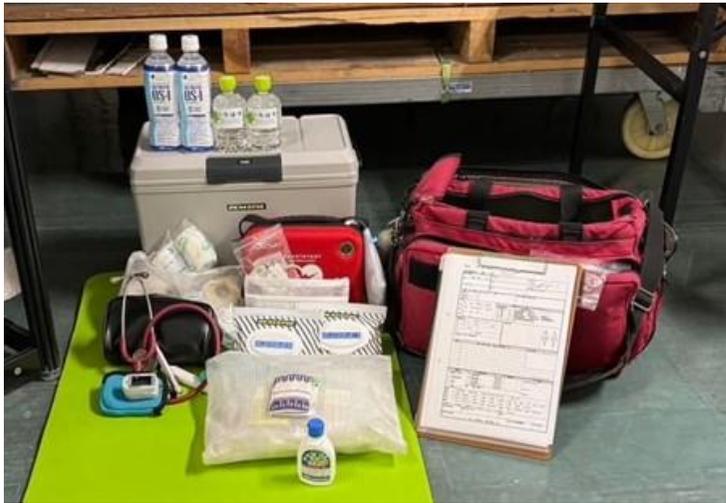
▼感染対策スタッフビブス



▼抗原検査キット



▼救護備品



▼救護スペース



▼検温の様子



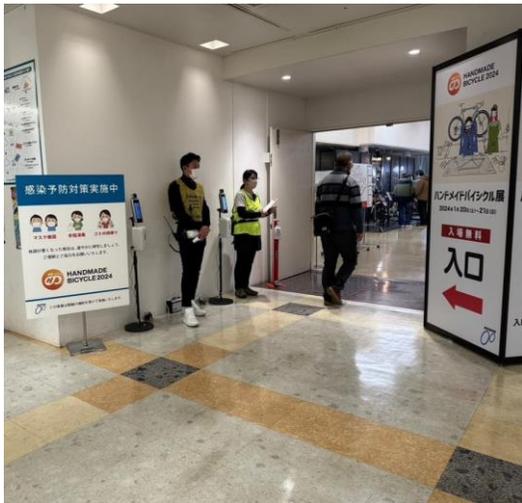
▼ブース消毒の様子



▼巡回の様子



▼場内感染対策注意喚起看板①



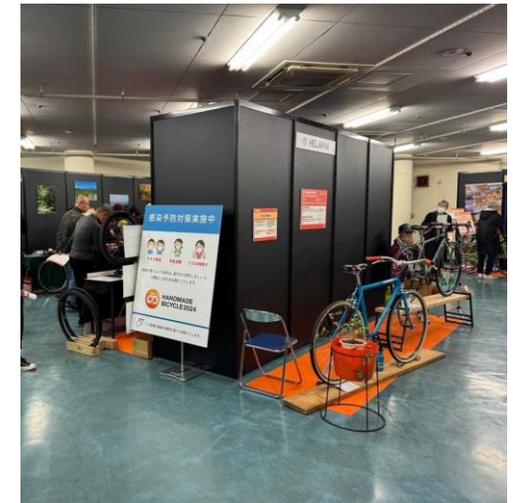
▼場内感染対策注意喚起看板②



▼場内感染対策注意喚起看板③



▼場内感染対策注意喚起看板④



第2部：3か年調査実績

本調査は、令和3年度～令和5年度の期間に実施しているが、同様の調査イベントであっても、感染状況に応じて実施した対策の内容は様々であった。

改めて実施内容をイベントごとに集約し、安全にイベントを開催する上で最も重要であると思われる事項をまとめた。

COVID-19に限らず、同様のパンデミックや緊急事態が起きた際に活用いただければ幸いです。

3 年：実施内容の推移

サイクルドリームフェスタ（来場型屋外イベント）

サイクルドリームフェスタ	令和3年度（2021年度）	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）
開催時期	5月1日（土）～31日（月）	5月5日（木・祝）	5月5日（金・祝）
感染状況	・緊急事態宣言発令中につき、オンラインにて実施	・未だ終息せずに、国として、任意のワクチン接種を強く推奨	・イベント3日後に5類へと移行されることが決定
感染対策チームの設置		・感染対策責任者／コーディネーター ・監修医師 ・検温チーフ／スタッフ／巡回員	・令和4年度同様 ・検温スタッフ巡回員の人数は若干減員
行動履歴と健康観察		・Googleフォームを活用して実施 ・出展者及び関係者は 10日間 の内容回答 結果：未回答者は会場にてヒアリング	・令和4年度同様Googleフォームを活用 ・出展者及び関係者は 5日間 の内容回答 結果：未回答者は会場にてヒアリング
検査体制		・事前に「抗原検査」を送付し、会場入り24時間以内の実施が必須 結果：陽性0名	・令和4年度同様 結果：陽性0名
検温所の設置	オンライン開催に切り替えたため対象事業からは除外	・検温所通過者にはリストバンドを配布着用者は再入場時に検温をパスできた ・再検温所を設置 結果：1312名中入場不可0名	・検温必須ではなく、あくまでも任意 ・検温実施可能な感染対策ブースを会場内に設置 結果：検温を34名が行い、入場不可0名
会場内の感染対策		・会場内 不織布マスクの着用必須 ・不織布マスクを非着用者に、マスク付け替えの声掛けと交換用マスクをお渡し 結果：187名に不織布マスクを配布 ・受付用紙記入テーブルおよび筆記具をこまめに消毒	・会場内に入場する際の検温やマスク着用は 任意 ・受付用紙記入テーブルおよび筆記具をこまめに消毒
その他		・結果：フェイスシールドの着用については任意であったことに加え、イベント当日の気温が高かったため、着用率がとても少なかった。	・結果：検温同様、意識的にこまめに消毒する来場者もいらっしまった

3 年：実施内容の推移

Tour of Japan (ロードレースイベント)

Tour of Japan	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
開催時期	5月28日 (金) ~5月30日 (日)	5月19日 (木) ~5月22日 (日)	5月21日 (日) ~5月28日 (日)
感染状況	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言発令下につき、観戦自粛 ・陽性者の発生はもはや想定の範囲内 	<ul style="list-style-type: none"> ・未だ終息せずに、国として、任意のワクチン接種を強く推奨 	<ul style="list-style-type: none"> ・同年5月8日に5類へと移行がされ、濃厚接触者等の概念もなくなった
感染対策チームの設置	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策責任者/コーディネーター ・監修医師/帯同医師 ・検温チーフ/スタッフ/巡回員 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度同様 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度同様 ・検温スタッフ巡回員の人数は若干減員
行動履歴と健康観察	<ul style="list-style-type: none"> ・Googleフォームを活用して実施 ・全バブル毎日回答必須 結果：回答率約86%にとどまる 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察アプリを活用して実施 ・全バブル毎日回答必須 結果：回答率約93%に上昇 	<ul style="list-style-type: none"> ・Googleフォームを活用して実施 ・全員1回のみ回答必須し設問数も削減 結果：回答率約79%にとどまる
検査体制	<ul style="list-style-type: none"> ・レースバブル「PCR検査」 ・セミバブル「PCR検査+抗原検査」 結果：陽性2名 (参加取りやめ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・レースバブルはワクチン2回以上の接種を条件に検査対象から除外 ・セミバブル「抗原検査」2回 結果：陽性0名 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフに限り「抗原検査」1回実施 ・全8ステージ従事の場合は2回実施 結果：陽性0名
検温所の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・観戦自粛のため、イベント関係者のみを対象とした検温ブースを運営 ・再検温所を設置 結果：1376名中入場不可0名 	<ul style="list-style-type: none"> ・バブル内のメンバーは、毎朝健康観察の入力義務があるため、検温所では検温せず通過可能 (バンド着用) ・令和3年度同様に再検温所を設置 結果：5092名中入場不可0名 	<ul style="list-style-type: none"> ・検温実施可能な感染対策ブースを会場内に設置 ・検温必須ではなく、あくまでも任意 結果：検温を20名が行い、入場不可0名
参加者 (選手) の感染対策	<ul style="list-style-type: none"> ・バブル方式を活用し、バブルごとに性質に適した対策を講じた ・バブル間の接触にあたっては予め条件を設けた 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度同様 	<ul style="list-style-type: none"> ・バブル方式廃止
会場内・スタッフの感染対策		<ul style="list-style-type: none"> ・観客には来場日7日前までに、2度のワクチン接種を推奨 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場内に入場する際の検温やマスク着用は任意
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・濃厚接触者について、保健所の判断ではなく主催者として予め定義し、レース期間中に即時判断を行うこととした ・結果：期間中に体調不良1名発生したが、陰性であった 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍チームの参加有り ・結果：期間中の罹患疑い、体調不良等の個別対応は無し 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外在住チームの参加多数 ・結果：期間中にチーム関係者12件の個別対応あり。うち5件は陽性につき離脱。

3 年：実施内容の推移

ハンドメイドバイシクル展（来場型屋内イベント）

ハンドメイドバイシクル展	令和3年度（2021年度）	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）
開催時期	1月22日（土）～1月23日（日）	1月21日（土）～1月22日（日）	1月20日（土）～1月21日（日）
感染状況	・会場である東京都では、 まん延防止等重点措置発令中	・未だ終息せずに、国として、任意の ワクチン接種 を推奨	・ 5類 に移行して半年以上が経過 ・季節性インフルエンザと同様の考え方
感染対策チームの設置	・感染対策責任者／コーディネーター ・監修医師 ・検温チーフ／スタッフ／巡回員	・令和3年度同様	・検温スタッフ巡回員の人数は若干減員 ・会場内救護スタッフを配置
行動履歴と健康観察	・Google＆手書きフォーム双方にて実施 ・出展者及び関係者は 2週間 の内容回答 結果：回答率100% 感染疑い0件	・手書きフォームにて実施 ・出展者及び関係者は 1週間 の内容回答 結果：回答率100% 感染疑い0件	・体調不良の場合は来場を控えるよう事前にアナウンスし フォームは設けない ・抗原検査キット配布時も体調声掛け
検査体制	・出展者各2名＆関係者に「抗原検査」を送付。会場入り24時間以内の実施が必須 結果：陽性0名	・出展者＆関係者に「抗原検査」を送付。会場入り24時間以内の実施が必須 結果：陽性0名	・出展者＆関係者に「抗原検査」を会場で配布。速やかな陰性確認をご案内 結果：陽性0名
検温所の設置	・検温必須。再検温は専用車両にて実施 ・ 不織布マスクの着用必須 結果：1379名中入場不可0名 203枚の不織布マスクを配布し、不織布マスクの交換拒否は1名	・検温必須。再検温は専用車両にて実施 ・関係者は不織布マスクの着用必須 来場者は材質問わずマスクの着用必須 結果：2118名中入場不可0名 8枚の不織布マスクを配布し、マスクの着用拒否は1名	・検温必須ではなく、あくまでも任意 ・検温実施可能な感染対策ブースを会場内に設置 結果：検温を328名が行い、入場不可0名
会場内の感染対策	・会場内の混雑具合を広報する 混雑状況表示モニター を設置し、来場者の入場は550名以内を保つように運用 ・巡回員は定点監視を行い使用済み商談ブースを効率的に消毒	・令和3年度同様	・会場内に入場する際の検温やマスク着用は 任意 ・受付用紙記入テーブルおよび筆記具をこまめに消毒
その他	・結果：マスク交換拒否の方には、トラブルに発展する恐れがあったため、周囲との距離をとっていただくことを条件にそのまま入場した。	・結果：マスクの着用拒否の方には、周りの方が不安に感じる恐れがあるので着用はさせず、マスクを配布し入場。	・結果：マスクの着用は強制ではなく推奨ベースであったため、マスクを着用しない出展者が多く見られた。

3 年：行動履歴と健康観察に用いたアプリケーションについて

令和3年度（2021年）のTour of Japanでは、Googleフォームを用いて、参加者および関係者の行動履歴と健康観察を実施した。

令和4年度（2022年）のTour of Japanでは、**回答者と管理者双方の負担を軽減**すべく、アプリケーションを導入した。アプリケーションの選定、実際の内容、使用感について下記の様にまとめた。

使用したアプリケーションについて（概要）

●テレサ -体温記録活用アプリ-

株式会社新潟アルビレックスランニングクラブが開発した、毎日の検温や体調の記録をデータベース上で一括管理することができるアプリケーションソフトを採用。

Tour of Japan 2022では、大会10日前から大会終了後5日間に亘って、検温及び健康記録を実施した。



Temperature Record Safety
(体温) (記録) (安心・安全)

3 年：行動履歴と健康観察に用いたアプリケーションについて

アプリケーションの選定

●選定候補

主に「設問内容」「ワクチン接種証明可否」「操作性」の観点から、下記5つのアプリケーションの比較を行った。その結果、より使用上のカスタマイズ内容が充実し、安価で運用しやすい「テレサ」を採用した。

[OND'U](#)、[みんなの体調ノート](#)、[Metell](#)、[GLOBAL SAFETY](#)、[テレサ](#)

■体調管理媒体の検討(★:有料プラン)

No	媒体名	開発元・導入実績	設問	前年との設問比較	人数	有料プラン	その他ポイント	メリット・デメリット
1	OND'U	Panasonic 「阿波おどり」	 <ul style="list-style-type: none"> ・症状18項目 ・接触アプリからの通知有無 ・メッセージ入力機能 ・発熱時に限り行動履歴の提出必須 	【無し】 10(眠気)12(周囲の感染者の有無) 【備考】 11、13の設問は発熱者のみ	100名×10グループ	10,000円/1～10G 30,000円/11～20G ★個人やG毎の状況をダッシュボード管理	◎ 発熱者発生時に管理者に通知が届く ◎ CSV出力可能 ◎ リマインド機能	<メリット> ・無料版でも多機能 <デメリット> ・聞き取り内容項目を編集できない ・グループ運用方法について要検討
2	みんなの体調ノート	ORSO 「劇団四季」	 <ul style="list-style-type: none"> ・症状5項目 ・メッセージ入力機能 ★聞き取り項目の追加 	【無料プラン機能】 3(倦怠感)、6(頭痛)、7(嘔吐)、腹痛のみ 【備考】 有料プランはカスタマイズ可能	上限人数なし	3,000円/50人/月 ★CSV集計可能 ★体調不良者への連絡 ★リマインド通知		<メリット> ・人数に上限なし ・有料版は聞き取り項目をフルカスタマイズ可能 ・英語あり ・操作が簡単◎ <デメリット> ・無料版では不十分 ・ワクチン接種記録の入力無し
3	Metell	Appleach 「東京・春・音楽祭」	 <ul style="list-style-type: none"> ・症状15項目 ・メッセージ入力機能 ・行動記録 ・朝夜2回入力 	【無し】 3(呼吸困難)、6(筋肉の痛み)、9(結膜炎)、10(不眠)	上限人数なし	100円/1人/月 ★管理者へのメール通知 ★異常報告一覧 ★未報告者一覧 ★リマインド通知 ★作成した通知を所属メンバー全員に一括通知	◎ COVID対策記入欄あり (ワクチンPCR抗原検査実施日の報告など) ◎ CSV出力可能	<メリット> ・人数に上限なし ・有料版は多機能な通知 ・操作、動線案内が少し複雑 ・ワクチン接種記録 <デメリット> ・無料版では不十分
4	GLOBAL SAFETY	株式会社コムネット 「国民体育大会」	 <ul style="list-style-type: none"> ・症状6項目 ・メッセージ入力機能 ・行動記録 ・接触情報 	【無し】 6(筋身体体の痛み)、7(嘔吐)、8(下痢)、9(結膜炎)、10(不眠)	上限人数なし	99,000円(契約)+37,500円(運用)+7,500円(ヘルプ)/300人 ★管理サイト	◎ 入場QRコード機能有り 費用は、50名ずつで変動 左記はあくまでも251～300名の場合	<メリット> ・人数に上限なし ・リマインド通知有り ・管理階層が分かれている <デメリット> ・高コスト ・無料版では管理サイトを使えない ・ワクチン接種記録が入力できない
5	テレサ (有料)	アルビレックス新潟ワンニング 「第104回日本陸上競技選手権大会」	 <ul style="list-style-type: none"> ★聞き取り項目フルカスタマイズ可能 ★メッセージ入力機能 	フルカスタマイズ	上限人数なし	全機能有料 30,000円+100円/1人 (導入費3万円+使用料)	★ COVID対策記入欄あり (ワクチンPCR抗原検査実施日の報告など) ★ データベース情報一括管理 ★ リマインド機能 ★ 入場QRコード機能有り	<メリット> ・人数に上限なし ・聞き取り項目をフルカスタマイズ可能 ・ワクチン接種記録 <デメリット> ・有料プランのみ

3 年：行動履歴と健康観察に用いたアプリケーションについて

使用したアプリケーションについて（詳細）

●Tour of Japanでの項目設定

令和3年度にヒアリングを実施した内容の網羅に加え、バブルに属するための条件である感染陰性証明を兼ねるため、「抗原検査キット」の画像アップロード機能を活用した。

●対象者

テレサの利用対象者は下記バブルが該当。

アプリケーションをカスタマイズすることで、対象者は、自身の基本情報として該当バブルを選択した上での回答設問、管理側もバブル毎に回答を確認することが可能となった。

○レースバブル：選手／チーム関係者／審判

○セミバブル：大会ディレクター／事務局スタッフ／設営・運営チーム／宿泊・輸送チーム／広報チーム／ライブストリーミングチーム／セレモニー担当チーム／新型コロナウイルス感染症対策チーム／ニュートラルサービス／オフィシャルメカニック／競技計測チームWEB担当チーム／レースドクター／リーダージャージ提供スポンサー

○マーシャル：各都県自転車競技連盟

●入力内容

【事前のアプリ登録】

- ・基礎情報
- ・会場入り予定日 ※1

※1
会場入り予定日によって、抗原検査キットの実施日が異なるため

【毎日】

- ・毎朝の体温
- ・問診回答 ※2

※2
「37.5℃以上」 or 「問診結果に異常がある」場合、「行動履歴」の設問が自動追加される

【特定日】

- ・実施済みの抗原検査キット画像

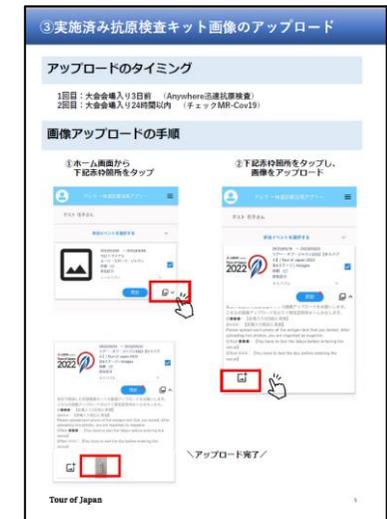


3 年：行動履歴と健康観察に用いたアプリケーションについて

事前案内

- 感染対策チームにて、アプリケーションの使用ガイド（日・英）を作成し、関係者へ事前に抗原検査キットを送付する際に、同封した。
- 参加者（選手）やマーシャルへは、感染対策チームから主催者へ協力を仰ぎ、使用ガイドの周知を図った。
- アプリケーションの使用ガイドはTour of Japanの感染対策マニュアルにも掲載した。

■ アプリケーションの使用ガイド（日本語版） ▶



考察

- アプリケーションを導入した結果、回答率は約93%と高水準であったことから、回答者の負担を軽減することができたと推察される。
なお、おそらく大半の対象者は本アプリケーションの使用歴はなく初めての使用であったと想定されるが、上記の運用効率を踏まえると、運営側からの事前案内も十分であったと評価できる（詳細は下記に記載）。「行動履歴と健康観察」はいかに漏れなく回答いただくかが重要であり、事前案内を疎かにせず、主催者と感染対策チームでの連携を密にとることが肝要である。
- 管理側も、アプリケーションを用いたことで、入力内容データを一括管理することができ、Googleフォームでの実施時と比較して格段に利便性が格段に向上した。具体的には、「未回答者の抽出」「未回答者へのリマインドアラート」「各バブルごとの回答状況の比較」等の機能が非常に有効であった。
- アプリ上で健康観察記録のみならず、抗原検査キットの判定結果を撮影・アップロードする独自のカスタマイズを追加したことで、検査結果の虚偽申告等を防ぐとともに、今後、パンデミック同様の事態となった際もTOJをはじめ、他の自転車イベントで有効活用できると想定される。
- 一方で、スマートフォンの設定が海外様式の場合、アプリケーションをダウンロードできないといったリージョン規制が生じ、全対象者が共通のアプリケーションを使用することができなかった。全地域に対応したアプリケーション仕様であることが望ましいが、アプリケーションの不具合時への備え、そして、スマートフォン非保持者にも対応できるように、代替媒体を事前に用意しておくことが重要である。
また今後、同様のアプリケーションを開発する際には、リージョン規制や言語の切り替え機能などを実装する必要がある。

3 年：安全にイベントを開催する上での最重要事項

1. 感染対策チームの設置

・イベントとして現実味のある対策の実施

主催者観点

- ・本調査では、「感染対策チーム」を実行委員会の直下に設け、「医療分野を主とする団体」「運営分野を主とする団体」の2団体で構成した。医療側、運営側双方の意見を踏まえることで、**イベントとして現実味のあるフレキシブルな対策**の提案、実施につながった。感染状況やイベント内容は様々であったが、この体制によって、3か年を通じて大きなトラブルなくイベントを開催することができたと自負している。どちらかの観点に偏ると、イベントが破綻していた可能性も大いにあり、最低限の順守すべき部分を抑えたうえでの現実的な策を模索していくことが求められる。

実例：会場入り72時間以内のPCR検査にて陰性を確認した「チームメンバー」と、会場入り24時間以内の抗原検査にて陰性を確認した「運営スタッフ」では、医学的には陰性の正確度が大きく異なるものの、チームメンバーと選手と運営スタッフの接触は不可避なことから接触時の条件を設けることで、イベント運営性を担保しつつ、最低限感染リスクを軽減を図った。

実例：5類移行後は厚生労働省の指針として濃厚接触者の抽出は行わないこととなったが、イベント特性（長期間のツアーレース、車両での長時間移動、相部屋、食事形式等）から、クラスターを防ぐために、濃厚接触者（陽性者と同チームのメンバー）に対し抗原検査を実施した結果、追加で1名陽性者が判明。更なる感染の蔓延を防ぐことができたと考察する。（陽性者はチーム、ツアー全体から離脱）

・イベントの性質に合わせた適切な医師の配置

主催者観点

- ・本調査の一部イベントでは、「感染対策監修医師」と「イベント帯同医師（救急）」の医師2名体制で実施をした。準備期は感染症専門医師から知見をいただき、最新の感染状況に応じた対策を講じることができた。現地では救急分野の医師が帯同することで、即時の診断ができ、感染症と感染症ではなかった際の分別や、診断後に適切な対応をとることができた。このことから、**「感染症」の正しい知識に特化することにとらわれすぎず、救急の判断に長けた医師の配置など、イベントの性質に合わせて医師の配置を整えることが非常に重要**である。

参加者観点

- ・イベント初日に、一見陽性と思われる症状であったが「検査は陰性であり、抗アレルギー薬をお渡し」という診断対応があった。結果的にレース復帰ができるほどに回復はしなかったためレース辞退となった。この一連の流れを関係者に案内したこともあり、救急分野の医師の帯同が、対象選手やチームだけではなく、イベント全体への安心へつながったと考える。
- ・特にチーム競技においては、陽性時に当本人だけでなくチーム全体が離脱となる恐れもあり、「陽性」「濃厚接触者」の診断は**デリケートな部分**でもある。さらにCOVID-19は無症状のケースもあり、医師や主催者の判断に納得いただけず、トラブルにつながることも考えられるため、「陽性者」および「濃厚接触者疑い」の方への対応に関して、**予めの参加者周知の徹底が求められる**。

3 年：安全にイベントを開催する上での最重要事項

2. 行動履歴と健康観察の実施

- ・入力する対象者と管理する管理者双方の負担軽減、効率化を意識開催地域における最新の感染状況を踏まえ、対象者への負担を考慮した設問制作

主催者観点

- ・行動履歴や健康感染の実施には一定の抑止効果があったと考えるが、結果的に回答率が低いと実施の意味をなさないため、**いかに対象者が回答しやすい環境を整えるか、**と同時に、**膨大な回答数を管理するにあたっての利便性、双方の観点を意識することが重要である。**

参加者観点

実例：回答必須の設問は「はい/いいえ」等の選択肢方式とする

実例：回答のタイミングについても「毎日回答」「過去2週間の内容を1度回答」「過去5日間の内容を1度回答」と、開催地域の感染状況に応じてアップデート

実例：令和5年度の感染状況が収まりつつある状況では、項目ごとに「はい/いいえ」を問うのではなく、「上記項目に該当するものはない」と包括した設問とすることで、回答者の負担を削減

主催者観点

- ・アプリケーションを導入し実施する場合は、スマートフォン不所持者やアプリケーション非対応のスマートフォン保持者など、何らかの理由で回答できない方を想定し、代替案を用意しておく必要がある。
- ・必ず全員に回答いただけるよう、**回答タイミングの明確化**は必須である。そして、回答タイミングに間に合うように事前に周知を徹底するためには、**感染対策チームと主催者間で密なコミュニケーション**をとり、**主催者の協力を仰ぐ**ことも重要である。

※P118にて令和4年度のTour of Japanで使用した「アプリケーション」について掲載

- ・実際に健康状態に異常がみられた場合に、イベントへの参加の判断や適切な対応がとれるよう、医療面での相談体制を整えておく

主催者観点

- ・行動履歴と健康観察を回答するにあたって、自分の状況（「自分は健康だが家族に感染者がいる」「家族の職場でクラスター発生した」「陰性だが咳が止まらない」等）を相談したいというニーズは強く、公式の見解を提供できる相談を整えられると望ましい。

参加者観点

3 年：安全にイベントを開催する上での最重要事項

3. 検温所の設置

・検温所とセットで再検温の体制を整える

主催者観点

- ・会場内の感染を防止するために検温体制は重要であるが、**検温を実施するのであれば「入場不可時のフロー」まで整理しておくことが求められる。**事前にフローを想定しておくことで、**適当な場所への再検温所の配置、適当な人材（医師、有資格者）の配置**につながる。
- ・気温の影響を受ける屋外での実施に限らず、屋内の実施であっても、被検温者が検温直前までいた環境に大きく左右されるため、非接触検温の精度には限界もある。ハンディ式検温器の用意に加え、ご来場前の「体調が優れない場合はご来場をお控えください」といった注意喚起を疎かにせず、発信し続けていくこともポイントである。

参加者観点

- ・検温所の設置は、「会場内は全員が検温済みの状況であること」「自身の体調に不安があった際に相談できる窓口があること」など様々な観点で参加者の不安をやわらげることができる。従って、検温所および再検温所の体制が参加や来場の促進にもつながったと自負する。

・関係者へ快く感染対策ご協力いただくための環境づくり

主催者観点

- ・参加者や来場者に感染対策へご協力いただくには、第一に「**関係者が感染対策を順守していること**」が大前提となる。感染状況にもよるが、「1度検温所を通過した方は、イベント期間検温所をパスできるようにリストバンドをお渡しする」など、少しでも**イベント運営の負担とならないよう柔軟な対応**が重要である。

3 年：安全にイベントを開催する上での最重要事項

4. 参加者、来場者、スタッフの感染対策

・マスク着用、手指消毒、手洗いうがい、フィジカルディスタンスなど基本的な感染対策の徹底

主催者観点

- ・マスク着用を義務としていたイベントで、着用拒否のケースがあった。事前告知はもちろんのこと、予め着用義務を示している中で、どういった対応をとるのか、主催者と対応を検討しておく必要がある。

参加者観点

- ・5類移行後も、継続して、意識的にこまめに消毒をする来場者の様子が散見された。
会場内の感染対策備品および看板の設置や、ビブスを着用した巡回員の配置は、参加者への感染対策を促進できていただろう。

・感染疑似症者や濃厚接触者の想定、事前の対応の検討

主催者観点

- ・感染対策医師の知見を基に、**予めフローを想定**しておくことが求められる。
対象者とトラブルに発展することもあるため、フローには「**主催者との相談**」項目を設けることが大切である。
また、公共交通機関の使用も制限されるので、専用車両を整えられると万全である。
- ・濃厚接触者か否かの判断は、本来保健所によるものだが、イベントによっては保健所の判断を待っている時間猶予がないため、主催者と感染対策チームで独自の判断を行う必要がある。該当者にご理解ご納得いただくために、事前の周知や承諾を交わしておくことが望ましい。

・長期間のイベントにおける「生活面（食事、移動等）」での感染対策の徹底

主催者観点

- ・競技中よりも、食事や移動等の生活面は最も感染リスクが高いタイミングであり、感染対策チームの目が行き届きにくい箇所でもある。
ルールの制定、具体的な対策内容の周知をおろそかにせず徹底することが求められる。

3 年：安全にイベントを開催する上での最重要事項

4. 参加者、来場者、スタッフの感染対策

・バブル運用について

・令和3年度のTour of Japanにて、他のスポーツイベントで主流であった感染対策“バブル方式”を自転車競技では初めて採用し実施した。
＜バブル方式＞

大きな泡（バブル）で包むようにイベントを運営し、内部、外部との接触を遮断する感染対策方法のこと。

＜TOJでのバブル方式＞

令和3年度、令和4年度は下記のバブルを作成し、それぞれバブルごとに異なる感染対策を講じた。

①レースバブル

- ：チームバブル（選手、監督、メカニック、マッサージ、チーム広報、その他チームスタッフ等）
- ：コミセールバブル（コミセール、競技主管スタッフ）

②セミバブル

- ：運営に関わる主なスタッフ

＜バブル方式に関する考察＞

主催者観点

・令和3年度、令和4年度は5類移行前であり、イベント内でクラスターが発生してもおかしくない感染状況であったが、実際にクラスターが発生することはない、イベントを成功に終えられたことから、Tour of Japanでの対策としてバブル方式は有効であったと評価できる。特にTour of Japanは1日限りのイベントではなく、複数日にわたって開催されるイベントであり、「移動、食事、宿泊」といった感染リスクの高い「生活面」を伴うことから、クラスターを未然に防ぐ必要があった。ひとえに「イベント関係者」への感染対策を示したとしても、ポジションごとに関わり方や、関わるタイミングは様々であり、全員が共通の感染対策を行うことは不可能である。したがって、「チームバブル、コミセールバブル、セミバブル」とバブルを3種類設け、各バブルが遵守できる現実的な対策を示したことが、この度の成功要因であり、バブル方式の内容が最適であったと考える。

・バブル方式での運営時は、バブル外の接触ルールを予め設定しておく

主催者観点

・多くのイベントはTour of Japanの様に複数階層でバブルが構成されることが想定される。バブル方式とは先述の通り、バブル外部との接触を遮断することが目的であるが、バブル外との接触を完全に防ぐことは不可避である。したがって、バブル外（異なるバブルや非バブル）との接触条件を予め制定し、示しておくことが重要である。

参加者観点

3 年：安全にイベントを開催する上での最重要事項

5. その他

・開催地域の感染状況のフェーズに合わせた対策を講じる

主催者観点

・感染状況と対策は、イベント開催時期、開催地域によっても感染蔓延状況のフェーズが異なり、その実状を鑑みたフレキシブルな対策が求められる。感染状況は刻一刻と変化するため、対策内容は開催日に可能な限り近いタイミングでの決定が望ましい。

参加者観点

また、同様のイベントにおいてもツアーにて開催地が異なれば、その地域に則した対策をそれぞれ講じるべきである。

・陽性者発生時の主催者による公表について

主催者観点

・陽性者が発生した際に主催者として公表するか否かは、不安をおおるケースもあるので判断が難しいものではあるが、公表有無や公表範囲（どこまでの情報を公表するか）をイベント組み立て時点で協議できると良い。

・感染対策を実施するにあたって、何よりも重要な点は「主催者と感染対策チームの意思統一」である

主催者観点

・「感染対策」と一言で表しても、個人、団体、業界によっても意識に差があり、濃度はそれぞれである。イベントとして徹底した管理を行うには、主催者の徹底度合いに大いに左右される。形だけ実施しようと「感染対策チーム」を設置しても、感染対策チーム自体が権限のない組織であれば、感染対策は浸透しないため、**感染対策チームの位置づけの明確化および主催者と感染対策チームの意思統一**が非常に重要である。

参加者観点

感染対策ではなく別の分野であったとしても、上記観点は同様に当てはまるため、イベント組織として意識していくことが大切である。

3 年：セミナーの実施～動画コンテンツ、デジタル活用

セミナー概要

●概要

本事業で3年間実施した自転車イベント及び大会開催会場における感染対策等について、広く一般に知識素材として、また学習機会として提供するため、令和5年度第5回自転車セミナー(日本自転車普及協会主催)をリアル開催及びYouTubeを活用したオンライン配信を行った。

講師は、本業務の感染症対策チーム統括責任者及びコーディネーターであり、救急救命士である福島圭介氏が登壇した。

セミナーでは、「感染症流行時における安心・安全なイベント開催を実現するための対策方法」をテーマとし、今後のニューノーマルな状況下で、より安全対策に力を入れたイベント開催が必要不可欠とされる主催者の方のみならず、これからイベントに参加される一般の方々に向けて、この3年間で培った経験や実績から、重要ポイントを紹介した。

●公演日時

2024年2月15日(木) 18:00~19:00

●登壇者

福島 圭介 氏 (感染症対策業務及び調査研究事業 感染症対策チーム統括責任者・
コーディネーター/株式会社ピースフル)

●ライブ/アーカイブ配信URL

同日は、日本自転車普及協会の公式YouTubeチャンネルにてライブ配信を行った。
どなたでも視聴できるようにセミナー後もアーカイブ配信をしている。

配信URL <https://www.youtube.com/live/sbhS5B1sFfw?feature=shared>

一般財団法人日本自転車普及協会 令和5年度第5回自転車セミナー

感染症流行時における
安心・安全なイベント開催を実現するための対策方法

リアル/オンライン両開催!
参加費無料!!

開催日
2.15(木)
講演: 18:00~19:30
懇親会: 19:40~20:40
●参加費
無料!

コロナ禍での開催イベント感染対策

2019年より世界的パンデミックとなった「新型コロナウイルス感染症」は、発生・蔓延から
鎮静化まで数年の月日を経ました。長く続いたコロナ禍において、主催者も参加者も安心安全な
イベント開催が求められてきました。講師の福島氏は、「ワールドトライアスロンシリーズ
講演大会」をはじめとした様々な大規模イベントで安全対策・感染症対策担当として従事。
本協会の自転車イベントおよびロードレース大会に、3年連続で帯同した経験から蓄積された
ノウハウは多岐に渡ります。

本セミナーでは、その福島氏にニューノーマルの状況下で「安心・安全」にイベント開催・
参加するためのポイントをご自身の経験も踏まえお話しいただきます。これからイベントに
参加される方のみならず、より安全対策に力を入れたイベント開催が必要不可欠とされる主催
者の皆様にとっても非常に重要なテーマとなります。是非ご参加くださいませ。

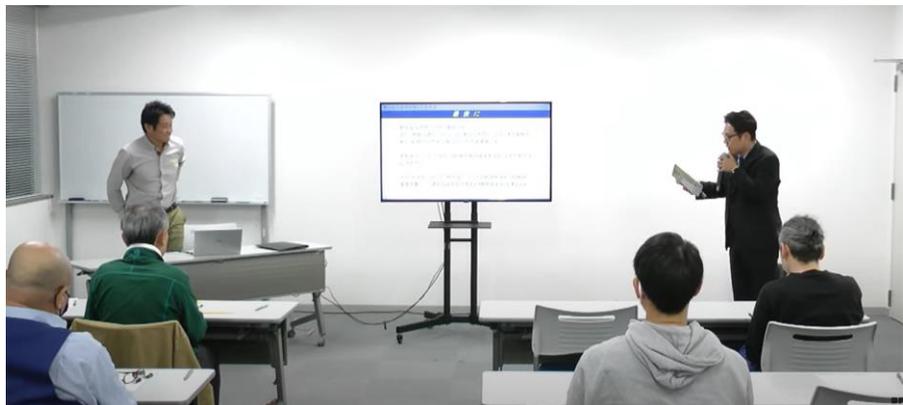
講師	福島 圭介氏	プログラム
株式会社ピースフル代表取締役 一般社団法人救急救命士連携ネットワーク 代表理事 一般社団法人日本救急救命士協会 副会長 公益財団法人日本ライフセービング協会 救急救命本部 救急訓練委員会 副委員長	「事故は未然に防ぐ、それが使命」という言葉を掲げ、様々なイ ベント会場や施設での救護業務を行っている。蓄積された知識ノ ウハウを駆使し、派遣業務だけでなく、1つ1つのイベントの特 性や内容に合わせた救護業務全般もコーディネートしている。救 護計画、救護体制マニュアルを作成することで業務の見える化を 行い、より明確かつ連携のとれた体制を構築している。	18:00 講演内容 『パンデミックにおける対応』 コロナ禍中に主催者が実施する様々なイベントで実際に感染対策を行っ てきた福島氏。その経験と知識から、方々へ、開催現場の状況が異な った際の対策や対応をイベント主催者へ、一歩踏み込んだ視点から お話しいただきます。
		『現場における救急対応』 講師の福島氏の内容や救急業務の現場で必要知識がポイントなども含ま れます。是非このような機会に受講いただき、活用して対応するための知 識は、主催者、参加者共に非常に重要です。
		『熱中症の基礎知識と応急手当』 夏季をはじめ、暑い時期のイベント開催時には暑さ対策が欠かせないとい われない時期について、対策方法を覚えておくことはとても重要です。暑中 対策は予防が基本です。事故が起きたらすぐに対応するのと重症化を防ぎ ます。暑中対策のために必要な基礎知識と、講師の経験のポイントを、 暑化を防ぐための応急手当についてお話しいただきます。
ギャラリー	講師のお写真	19:20 質疑応答 & アンケート 19:40 懇親会スタート 20:40 終了予定

チケット販売サービス「PassMarket」にてお申込みください
お申込み: abe@jifu.jp
【主催】一般財団法人日本自転車普及協会  お申し込み

3 年：セミナーの実施～動画コンテンツ、デジタル活用

セミナーの様子

第5回自転車セミナー会場の様子



スライドの抜粋

パンデミックにおける対応

イベントにおける感染対策と本講習の目的

イベントにおける感染対策は、イベント参加者における新型コロナウイルス感染症拡大防止、感染リスクを軽減するための対策です。

本講習では、Tour Of Japan 2021～2023の全3回および下記イベントにおいて実施した感染対策を紹介するとともに、実施実績を考察し今後いつ起こるか分からないパンデミックに備えることに役立てばと思います。

実施イベントおよび期間

2021年度	Tour of Japan 2021	2021年5月28日(金)～5月30日(日)
	2022ハンドメイドバイシクル展	2022年1月22日(土)、23日(日)
2022年度	サイクルドリームフェスタ2022	2022年5月5日(木・祝)
	Tour of Japan 2022	2022年5月19日(木)～5月22日(日)
	2023ハンドメイドバイシクル展	2023年1月21日(土)、1月22日(日)
2023年度	サイクルドリームフェスタ2023	2023年5月5日(金・祝)
	Tour of Japan 2023	2023年5月21日(日)～5月28日(日)
	2023ハンドメイドバイシクル展	2024年1月20日(土)、1月21日(日)

パンデミックにおける対応

感染対策 実施内容の概要

1. 感染対策チームの設置
2. 行動履歴と健康観察
3. 検査体制
4. 検温所の設置
5. 参加者(選手)の感染対策
6. 会場内・スタッフの感染対策

第5回自転車セミナー YouTube配信ページ

パンデミックにおける対応

ロードレースにおける濃厚接触者 自転車セミナー

濃厚接触者の判断は保健所が行うが、ロードレースにおいては以下が想定される。

<濃厚接触者に該当する可能性あり>

- ・所属チームメンバー(選手、スタッフ、監督)で宿泊、食事、移動を共にしていた人
- ・審判、ニュートラル、メディア、撮影、運営関係の自動車で同乗していた人
- ・運営事務局、準備室などで共に作業をしていた人

<濃厚接触者に該当する可能性が低い>

- ・ロードレースでの集団走行
- ・スタート整列
- ・屋外で3密を回避したミーティング

COVID-19 ワクチン
ワクチンに関する厚生労働省の最新情報。 [詳細](#)

さらに詳しい情報を Google で

●本セミナーは、2021年から2023年の3年間に亘り、コロナ禍における感染症対策として構築・実施してきた運営体制と培ったノウハウの価値と重要性について、広く一般に伝える機会となった。特に、実践的な感染症対策の事例や考察から得られた貴重な教訓が共有され、今後の自転車関連をはじめとするイベントや競技大会の主催者や参加者に対し、効果的な対策のための知識を提供した。

さらに、より多くの方々に情報提供を行うために、セミナーの内容はデジタルメディア「YouTube」を活用した配信を行い、地理的・時間的制約を超えて、広範囲の視聴者が参加し、貴重な情報を得る機会の提供となった。セミナー映像を今後もYouTubeでアーカイブ視聴可能とすることで、引き続き、より広範な層にリーチ・拡散されると予想される。

また、この取り組みにより得られた感染症対策の知識や必要な資機材等の情報、YouTube映像素材は、今後の自転車競技大会・イベントの運営に大きな効率性の向上と安全性をもたらすと共に、同様の状況下で重要な役割を果たす機器やアプリケーションの開発・発展への寄与が期待される。

本事業で構築したガイドライン、マニュアル、報告書の活用について

本事業では、世界的な感染拡大という未曾有の社会環境で「安心して安全なイベント、スポーツ競技大会」を運営するため、自転車関連イベント及び国内の自転車競技大会として初めてCOVID-19感染対策チームを設置した。

感染対策に係るガイドラインやマニュアル等の作成を始めとし、自転車イベント、競技大会会場における様々な感染対策を試みた結果、成功裏に終了できた。

本イベントでの培ったノウハウは、他の国内UCIレースをはじめとした自転車イベント・競技大会主催者へ資料及び情報提供を行った。これら最新情報の共有が、様々な自転車イベント・競技大会の再始動の契機になったと考える。

また、今回の特殊な状況下でのイベント運営に携わる経験は人材育成の場にもなり、多方面に多くの学びをもたらしたと考える。

さらに、パンデミック禍でのイベント成功自体が、下火になってしまったリアル開催イベントへの参加や自転車レース観戦と自転車そのものへの興味や関心取り戻すきっかけとなったと自負する。

●主な提供先

公益財団法人日本自転車競技連盟

国内UCIレース主催者

- ・ ツール・ド・熊野
- ・ ジャパンカップ
- ・ ツール・ド・九州
- ・ Tour de France さいたまクリテリム 他

- 株式会社ルーツ・スポーツ・ジャパン

【所在地】 〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町12-21 コモンズビル7F

【TEL】 03-3354-3900

【FAX】 03-3354-3901

- 株式会社ピースフル

【所在地】 〒252-0232 神奈川県相模原市中央区矢部3-9-14 カスミビル1階

【TEL】 042-856-3995

【FAX】 042-856-3994

参考、出典文献

○公益財団法人日本自転車競技連盟

「緊急事態宣言解除後の大会開催に向けたガイドラインについて」 https://cutt.ly/JCF_guidelineaboutcovid-19

○公益財団法人日本スポーツ協会

「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」 <https://japan-sports.or.jp/about/tabid1278.html>

○厚生労働省

「感染拡大防止と医療提携体制の整備—受診・相談センター／診療・検査医療機関等」

https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kansenkakudaiboushi-iryouteikyou.html#h2_2

○厚生労働省

「新型コロナウイルス感染症について」 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

○厚生労働省

「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）病原体検査の指針」 <https://www.mhlw.go.jp/content/000788513.pdf>

○国土交通省

「新型コロナウイルス感染症に関する国土交通省の対応」 https://www.mlit.go.jp/kikikanri/kikikanri_tk_000018.html

○UCI（国際自転車競技連合）

「Rules to be applied for the organisation of road cycling competitions in the context of the COVID-19 pandemic-ロードサイクリング競技会の開催に適用される規則COVID-19パンデミックの環境で」

<https://www.uci.org/pressrelease/the-uci-updates-its-covid-19-health-protocol-for-road-cycling-events-in-2022/6WypWI73KKKKR6k3wkq0sR>